

東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野

東京大学医学部家族看護学教室

年報（第8号）

平成19年4月～平成21年3月

## はじめに

家族看護学教室年報の第8号が出来上がりました。健康科学・看護学専攻内外の諸先輩方のご指導のもと、平成19年度、平成20年度を無事終えることができましたことを、ご報告し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

この2年間の世界情勢、国内情勢は決して安心できるものではありませんでした。健康問題の中では、感染症が再び注目されるようになり、新興感染症の脅威は目の前まで迫ってきています。世界的経済不況は、国内の自殺者3万人問題や、育児不安・高齢者介護をめぐる問題に拍車をかける懸念があります。実際、保育園待機児童が急増したために、厚生労働省は対応策を打ってはいますが、質の良い生育環境を子どもたちに用意できているかという点、心もとない状況と言わざるを得ません。平成19年度に児童相談所が行った児童虐待に対する相談対応件数は4万件を越えました。さらに、平成19年4月から学校教育法に位置づけられた「特別支援教育」も、子どもたちの生育環境の大きな変化と言えます。

このような情勢の中で、我々はいかなる役割を果たしうのでしょうか。東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻ではこの間にもいくつかの機構変革がありました。平成19年度には、健康科学コースと社会医学専攻を母体とした「公共健康医学専攻専門職修士学位課程(MPH1年コース、2年コース)」がスタートしました。同19年度末には、前年度に健康科学・看護学専攻に開設された「保健師コース・看護師コース」から一期生を送り出し、現在までに我が「家族心理看護」ユニットからも3名が保健学修士号を持って巣立ちました。平成20年度には、看護師コース内に「CNSコース(がん看護)」が開設され、当教室からも1名が受講しています。現在の家族のニーズに応えながら研究を展開するとともに、将来を見据え、家族看護学の専門性を高められるような教育の在り方を追求していきたいと願っています。

この2年間に当教室に所属して学位を授与された者は、学士1名(副島堯史君)、修士5名(陳俊霞君、藤岡寛君、小西美樹君、佐藤伊織君、津村明美君)、博士1名(上野里絵君)です。おめでとうございます。

業績数は、かならずしも十分ではありませんが、タイのバンコクで開催されました第8回国際家族看護学会に3演題を発表したり、11本の英文論文を出したりすることができました。教室員一同、励んでおりますので、今後ともどうぞ当教室へのご理解と、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

平成21年3月

東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野  
准教授 上別府 圭子

# 目 次

はじめに

## 1. 教育活動

1-1. 担当講義・実習 . . . . . 2

1-2. 卒業論文・修士論文・博士論文 . . . . . 4

## 2. 研究活動

2-1. 研究費 . . . . . 5

2-2. 学術研究業績 . . . . . 7

2-3. 学内外の公的活動 . . . . . 27

3. 教室カンファレンス . . . . . 29

## 4. 家族看護学教室研究会

4-1. 家族看護学研究会 . . . . . 46

4-2. 家族ケア症例研究会 . . . . . 48

5. 「家族看護学」勉強会（院生自主勉強会） . . . . . 49

6. 教室の沿革 . . . . . 52

7. 資料 . . . . . 53

家族看護学教室 教室員（平成19年度～平成20年度）

# 1. 教育活動

## 1-1. 担当講義・実習

### 平成 19 年度家族看護学教室担当講義・実習一覧

#### 【学部】

講義名	履修	単位	学年	開講時期および時間		
看護学の基礎 と展開	総合科目一般 D 人間・環境一般 教養課程選択	2	1・2	前期	木	16:20~17:50
健康科学・看護学 概論	必修	2	2	後期 I・II	水	10:40~12:10
病態生理免疫学	必修	1	3	前期 II - 3	木	9:00~12:10
小児看護学	看護学コース必修	分 1	3	後期 I - 2	月 金	13:00~16:10 16:20~17:50
家族看護学	看護学コース必修 選択	2	3	後期 II	金	13:00~16:10
助産学 III	選択	2	4	前期 I - 2 III	月~金 月~金	9:00~16:10 9:00~16:10
小児看護学	看護学コース必修	分 1	4	前期 III	月	9:00~16:10
小児看護学実習	看護学コース必修	分 2	4	後期	木・金 月~金	13:00~17:50 8:00~15:00
小児看護学実習	看護学コース必修	分 1	3	後期	月~金	9:00~16:00

#### ※ 開講時期

前期 I	4月9日	~	6月1日	8週
前期 II	6月4日	~	7月20日	7週
前期 III	9月3日	~	10月19日	7週
後期 I	10月22日	~	12月7日	7週
後期 II	12月10日	~	2月8日	7週
後期 III	2月11日	~	3月7日	4週

#### 【大学院】

家族看護学特論 I	5月~7月
家族看護学特論 II	10月~2月

平成 20 年度家族看護学教室担当講義・実習一覧

[学部]

講義名	履修	単位	学年	開講時期および時間		
生きることを支える科学:看護学の最先端	総合科目-D 人間・環境一般 教養課程選択	2	1・2	前期	木	16:20~17:50
健康科学・看護学概論	必修	2	2	後期 I・II	火	10:40~12:10
病態生理免疫学	必修	1	3	前期 II - 3	月・木	9:00~12:10
小児看護学	看護学コース必修	分 1	3	後期 I - 2	月・金	9:00~12:10 16:20~17:50
家族看護学	看護学コース必修 選択	2	3	後期 II	金	13:00~16:10
助産学 III	選択	2	4	前期 I - 2 III	水~金 月~金	9:00~16:10 月・火 13:00~16:10
小児看護学	看護学コース必修	分 1	4	前期 III	水・木	9:00~17:50
小児看護学実習	看護学コース必修	分 2	4	後期	月~金	8:00~15:50
小児看護学実習	看護学コース必修	分 1	3	後期	月~金	9:00~16:00

※ 開講時期

前期 I	4月7日	~	5月30日	8週
前期 II	6月2日	~	7月18日	7週
前期 III	9月1日	~	10月17日	7週
後期 I	10月20日	~	12月5日	7週
後期 II	12月8日	~	2月6日	7週
後期 III	2月9日	~	3月6日	4週

[大学院]

家族看護学特論 I	5月~7月
家族看護学特論 II	10月~12月
トランスレーショナルリサーチ看護学入門	7月14日~7月25日 (医学集中実習)
看護コンサルテーション特論	9月12日~12月16日

1 - 2. 卒業論文・修士論文・博士論文

平成 19 年度

修士論文

陳 俊霞：

中国都市部の大学からの定年退職者の主観的幸福感および関連要因

小西美樹：

N I C U 入院早期の早産時の授乳（経管栄養）場面における看護支援の開発

藤岡 寛：

小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究

平成 20 年度

卒業論文

副島堯史：

児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

修士論文

佐藤伊織：

PedsQL(Pediatric Quality of Life Inventory)脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美：

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する  
質的研究

博士論文

上野里絵：

精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える心理社会的  
要因に関する研究

## 2. 研究活動

### 2-1. 研究費

平成19年度(財)こども未来財団 児童関連サービス調査研究等事業、「周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究」 5,000 千円

上別府圭子, 山崎あけみ, 杉下佳文, 村山志保, 吉田敬子, 山下洋, 鈴宮寛子, 村中峯子, 栗原佳代子, 櫻井美里

平成18年度・19年度・20年度文部科学研究費補助金 基盤研究(C)「家族形成過程における家族機能に影響する要因の概念モデル構築」(課題番号18592344) 3,500千円 山崎あけみ, 上別府圭子

平成19年度, 平成20年度, 平成21年度, 平成22年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A), 「看護理工学を基盤としたトランスレーショなるリサーチシステムの構築とその評価」(課題番号19209065) 35,300 千円

真田弘美, 数間恵子, 菅田勝也, 榮木実枝, 上別府圭子, 春名めぐみ, 村山陵子, 北川敦子, 松井典子, 大場美穂, 田中真琴, 佐々木美奈子, 尾関志保, 武村雪絵, 山崎あけみ, 岩本佳文, 大西麻未

平成19年度 公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金「精神疾患を有する親と子どもの支援プログラムの開発に関する研究」1000 千円 上野里絵, 上別府圭子

平成19年度(第17回)公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金「在宅療養障害児のレスパイトケア利用に関する研究」1,000 千円 西垣佳織, 上別府圭子

平成20年度(財)こども未来財団 児童関連サービス調査研究等事業、「周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究」 2,000 千円

上別府圭子, 山崎あけみ, 杉下佳文, 村山志保, 栗原佳代子, 山本弘江, 池田真理, 古田正代, 山下洋

平成20年度厚生労働省科学研究費補助金(がん臨床研究事業), 「働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者, 小児がんの患者を持つ家族支援のあり方についての研究」(課題番

号 H20-がん臨床-一般 001 眞部班:分担研究者 上別府圭子) 27,238 千円

眞部淳, 細谷亮太, 小澤美和, 的場元弘, 押川真喜子, 鈴木伸一, 小田慈, 上別府圭子,  
堀部敬三

平成20年度「ゴールドリボン基金」による治療研究助成費(がんの子どもを守る会), 「PedsQL  
脳腫瘍モジュール日本語版の開発」 500 千円

上別府圭子, 石田也寸志, 樋口明子, 佐藤伊織, 西川亮

平成20年度メンタルヘルス岡本記念財団研究活動助成金, 500 千円

東大家族ケア研究会 代表者 上別府圭子

平成 19-22 年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(A), 「看護理工学を基盤としたトランスレーショなるリサーチシステムの構築とその評価」(課題番号 19209065) 35,300 千円

眞田弘美, 数間恵子, 菅田勝也, 榮木実枝, 上別府圭子, 春名めぐみ, 村山陵子, 北川敦子, 松井典子, 大場美穂, 田中真琴, 佐々木美奈子, 村山志保, 武村雪絵, 山崎あけみ,  
岩本佳文, 大西麻未

2 - 2. 学術研究業績

論文(原著論文・総説)

Kamibeppu, K., Nishigaki, K., Yamashita, H., Suzumiya, H., Yoshida, K.: Factors associated with skills of health visitors in maternal-infant mental health in Japan, *BioScience Trends*, 1(3), 149-155, 2007. (査読有)

Chen, X., Origasa, H., Ichida, F., Kamibeppu, K., Varni, J.W. :Reliability and validity of the Pediatric Quality of Life Inventory™ (PedsQ™) Short Form 15 Generic Core Scales in Japan, *Quality of Life Research*, 16, 1239-1249, 2007. (査読有)

Yamazaki, A.: Family Synchronizers: Predictors of sleep-wake rhythm for Japanese first-time mothers. *Sleep and Biological Rhythms*, 5, 217-224, 2007.

Wakimizu, R., Ozeki, S., Kamibeppu, K.: Psychological distress and related factors during hospitalization among young patients undergoing minor surgery in a Japanese suburban hospital, *Japanese Journal of Research in Family Nursing*, 12, 112-124, 2007. (査読有)

Nonaka, J., Kamibeppu, K.: Grieving process in siblings of children who died of cancer, *Pediatric Blood & Cancer*, 49(4), 558-559, 2007. (査読有)

Ueno, R., Kamibeppu, K.: Narratives by Japanese mothers with chronic mental illness in the Tokyo metropolitan area: their feelings toward their children and perceptions of their children's feelings, *Journal of Nervous and Mental Disease*, 196(7): 522-530, 2008. (査読有)

Ikeda, M., Inoue, K., Kamibeppu, K. : Goals and potential career advancement of licensed practical nurse in Japan, *Journal of Nursing Management*, 16, 821-828, 2008. (査読有)

Omine, F., Nakamura, M., Gima, T., Tamashiro, Y., Uza, M., Kamibeppu, K.: The efficacy of employing full-time midwives in community maternal and child health services, *The Japanese Journal of Health and Human Ecology*, 74(4), 192-203, 2008. (査読有)

Kamibeppu, K., Kobayashi, K.: Self-reported depressive symptoms in school-children: A survey of three schools in Metropolitan Tokyo, *Japanese Journal of Child and Adolescent Psychiatry*, 49 (Suppl.), 9-22, 2009. (査読有)

Kamibeppu, K., Furuta, M., Yamashita, H., Sugishita, K., Suzumiya, H., Yoshida, K.: Training health professionals to detect and support mothers at risk of postpartum depression or infant abuse in the community: A cross-sectional and a before and after study, *BioScience Trends*, 3(1), 17-24, 2009. (査読有)

Ikeda, T., Nakata, A., Takahashi, M., Hojou, M., Haratani, T., Nishikido, N., Kamibeppu, K.: Correlates of depressive symptoms among workers in small and medium-scale manufacturing enterprises in Japan. *Journal of Occupational Health*, 51, 26-37, 2009. (査読有)

Wakimizu, R., Kamagata, S., Kuwabara, T., Kamibeppu, K.: A randomized controlled trial of an at-home preparation programme for Japanese preschool children: effects on children's and caregivers' anxiety associated with surgery, *Journal of Evaluation in Clinical Practice*, 15: 393-401, 2009. (査読有)

上別府圭子, 山下洋, 栗原佳代子, 鈴宮寛子, 江井俊秀, 吉田敬子: 地域保健スタッフの母子精神保健活動を支援する研修の評価, *小児保健研究*, 66(2), 299-306, 2007. (査読有)

上別府圭子: AT スプリッターT から A へー, *精神分析研究*, 51(4), 359-366, 2007. (査読無)

上別府圭子: シンポジウム「目標喪失の時代に我々は青少年をいかに支援できるか」を終えて, *こころの健康*, 22(1), 54-55, 2007. (査読無)

平島奈津子, 上別府圭子, 藤澤大介, 赤松達也, 相良洋子: 認知療法と精神分析的な精神療法, *日本女性心身医学会雑誌*, 12(3), 445-464, 2007. (査読無)

山崎あけみ: 生まれたばかりの家族を育てるケアー単位の家族にかかわるヒントー第8回, *Neonatal Care*, 20(4):413-418, 2007. (査読無)

山崎あけみ：生まれたばかりの家族を育てるケアー単位の家族にかかわるヒントー第9回, *Neonatal Care*, 20(5):478-483, 2007. (査読無)

山崎あけみ：生まれたばかりの家族を育てるケアー単位の家族にかかわるヒントー第10回, *Neonatal Care*, 20(6):570-575, 2007. (査読無)

山崎あけみ：生まれたばかりの家族を育てるケアー単位の家族にかかわるヒントー第11回, *Neonatal Care*, 20(7):699-704, 2007. (査読無)

山崎あけみ：生まれたばかりの家族を育てるケアー単位の家族にかかわるヒントー第12回, *Neonatal Care*, 20(8):811-817, 2007. (査読無)

西垣佳織：質的研究の歴史と現在, *外来小児科*, 10(3):270-276, 2007. (査読無)

下平和代, 上別府圭子, 杉下知子：ターミナル期の看護行動に影響を与える看護師の感情, *日本看護科学会誌*, 27(3), 57-65, 2007. (査読有)

上別府圭子：小児がん経験者をめぐる問題と長期フォローアップシステムの整備 家族に対する支援, *日本小児科学会雑誌*, 112(2), 167, 2008. (査読無)

尾関志保, 上別府圭子：子どもがとらえる死と生, *世界の児童と母性*, 64: 28-31, 2008. (査読無)

上別府圭子, 山崎あけみ, 水主いずみ, 松村ちづか, 古池きよみ：「現任教育において実践者と教育者をつなぐ」第15回日本家族看護学会 交流セッション1, *家族看護学研究*, 14(2) : 49, 2008.

上別府圭子, 佐藤伊織：小児看護の現場から見る母性-サイコセラピューティックな看護の効果-, *精神療法*, 664-668, 2008. (査読無)

上別府圭子：(総合司会) 特集 精神科病院のこれからを考える (総合討論), p44-61 / *心と社会*, 39(2), 日本精神衛生会, 2008. (査読無)

上別府圭子：病院内で行なう心のケアという仕事，*心身医学*，48(6), p469, 2008. (査読無)

上別府圭子：成人期の発達障碍とどうかかわるか How can we work with adults with developmental disorders, 第9回日本サイコセラピー学会 シンポジウム1 (前文), *日本サイコセラピー学会雑誌*，9(1), 23-24, 2008. (査読無)

上別府圭子，山崎あけみ：現任教育において実践者と教育者をつなぐ，*家族看護学研究*，14(2), 49, 2008. (査読無)

上別府圭子，佐藤伊織：小児看護の現場から見る母性—サイコセラピューティックな看護の効果—，*精神療法*，34(6), 664-668, 2008. (査読無)

山崎あけみ：はじめての家族員を迎える妊娠期にレディネスを育む家族看護，*家族看護*，6(1):33-39, 2008. (査読無)

山崎あけみ：「家族の視点から不妊を考える」日本不妊カウンセリング学会：第23回不妊カウンセラー・体外受精コーディネイター養成講座，講演集:45-53, 2008.

杉下佳文，栗原佳代子，村山志保，上別府圭子：周産期メンタルヘルスと虐待防止に関する育児支援システムの実施 - 全国の県型保健所による取組み - ，第55回日本小児保健学会講演集，187, 2008. (査読有)

小林京子，上別府圭子：小児がん経験者に対する母親と看護師の関わりのプロセスに関する研究，*小児がん看護*，3, 45-53, 2008. (査読有)

小西美樹，山崎あけみ，上別府圭子：NICU入院早期の早産児の授乳（経管栄養）場面における看護支援の開発，*家族看護学研究*，14(2), 134, 2008. (査読有)

石田也寸志，本田美里，大園秀一，岡村純，浅見恵子，岩井艶子，坂本なほ子，掛江直子，上別府圭子，堀部敬三：小児がん経験者の晩期合併症と QOL の横断的調査研究 造血幹細胞移植の影響，*日本小児科学会雑誌*，113(2), 305, 2009. (査読有)

岩井艶子，石田也寸志，本田美里，岡村純，大園秀一，浅見恵子，坂本なほ子，掛江直子，

上別府圭子, 堀部敬三: 小児がん経験者の晩期合併症と QOL の横断的調査研究 結婚, 妊娠等に関する検討, *日本小児科学会雑誌*, 113(2), 377, 2009. (査読有)

大園秀一, 石田也寸志, 本田美里, 岡村純, 浅見恵子, 岩井艶子, 坂本なほ子, 掛江直子, 上別府圭子, 堀部敬三: 小児がん経験者の晩期合併症と QOL の横断的調査研究 身体的晩期合併症の解析, *日本小児科学会雑誌*, 113(2), 347, 2009. (査読有)

杉下佳文, 山本弘江, 上別府圭子: 子どもの虐待予防に助産師はどうかかわるか, *助産学雑誌*, 63(2), 129-132, 2009. (査読無)

上別府圭子, 杉下佳文: 産後うつ病: 退院前にできる支援と地域との連携, *妊産婦と赤ちゃんケア*, 1(2), 17-22, 2009. (査読無)

佐藤伊織, 上別府圭子: 小児がんを持つ子どものきょうだいに対する「情報提供」と「情報共有」～きょうだいへの説明に注目した文献レビュー～, *小児がん*, 46(1):31-38, 2009. (査読有)

村上慶子, 西垣佳織, 上別府圭子: 都下 23 区内の保育所における保健活動と看護職の役割に関する実態調査, *小児保健研究*, 68(3), 2009 (in press). (査読有)

涌水理恵, 西垣佳織, 黒木春郎, 五十嵐正紘: 小児プライマリ・ケアにおける保護者の医療機関選択プロセス – 医師患者関係に焦点を当てて –, *外来小児科*, 12(1):17-28, 2009. (査読有)

#### 著書・編著・教科書ほか

上島国利, 上別府圭子, 平島奈津子編著: 知っておきたい精神医学の基礎知識—サイコロジストとコ・メディカルのために, 誠信書房, 2007.

上別府圭子, 森岡由起子編著: サイコセラピューティックな看護, 金剛出版, 2007.

上別府圭子: 心理療法の始め方, 進め方, 終わり方の留意点, p304-305 / 上島国利, 上別府圭子, 平島奈津子編: 知っておきたい精神医学の基礎知識—サイコロジストとコ・メディカ

ルのために，誠信書房，2007.

佐々木敦，上別府圭子：いろいろな心理療法，p305-312 / 上島国利，上別府圭子，平島奈津子編：知っておきたい精神医学の基礎知識-サイコロジストとコ・メディカルのために，誠信書房，2007.

上別府圭子：(コラム) 時間外や臨時の電話の対応，p313 / 上島国利，上別府圭子，平島奈津子編：知っておきたい精神医学の基礎知識-サイコロジストとコ・メディカルのために，誠信書房，2007.

上別府圭子：サイコロジストと精神科医との連携-サイコロジストの立場から，p455-457 / 上島国利，上別府圭子，平島奈津子編：知っておきたい精神医学の基礎知識-サイコロジストとコ・メディカルのために，誠信書房，2007.

上別府圭子：家族看護，p43 / こころの健康シリーズⅢ メンタルヘルスと家族，日本精神衛生会，2007.

上別府圭子：第1章「サイコセラピューティックな看護/Psychotherapeutic Nursing」の展望，p13-26 / 上別府圭子，森岡由起子編，サイコセラピューティックな看護，金剛出版，2007.

上別府圭子：編者あとがき，p180-183 / 上別府圭子，森岡由起子編，サイコセラピューティックな看護，金剛出版，2007.

上別府圭子：深層心理学（無意識の発見），p25-34 / 精神分析入門，放送大学教育振興会，2007.

上別府圭子：深層心理学（無意識へ至る道），p35-46 / 精神分析入門，放送大学教育振興会，2007.

上別府圭子：精神発達理論をたどる，p147-162 / 精神分析入門，放送大学教育振興会，2007.

藤岡寛，上別府圭子：5-5 死にゆく子どもの心理と社会関係 (1) 死の概念，日本医療保育学会医療保育テキスト編集委員会編，医療保育テキスト 日本医療保育学会医療保育専門士研

修用テキスト 2007 年版, 2007.

藤岡寛, 上別府圭子: 5-5 死にゆく子どもの心理と社会関係 (2)死の気づきと受容, 日本医療保育学会テキスト編集委員会編, 医療保育テキスト 日本医療保育学会医療保育専門士研修用テキスト 2007 年度版, 2007.

小西美樹, 上別府圭子訳: 第 20 章児童・思春期における HIV と AIDS, p305-319 / マイケル・C・ロバーツ (Michael C. Roberts)編 奥山真紀子・丸光恵監訳: 小児医療心理学 (Handbook of Pediatric Psychology-3rd edition), エルゼビア・ジャパン, 2007.

上別府圭子, 山本弘江: 第 4 章変貌する思春期の親子関係ー変わったのは親か子か, p37-43 / 中根晃・牛島定信・村瀬嘉代子編: 詳細 子どもと思春期の精神医学, 金剛出版, 2008.

上別府圭子: III キャリーオーバーした人の心理社会的支援 子ども時代の健康障害に関連した医療 PTSD とその予防的介入, p131-138 / 松下竹次監修 駒松仁子編集 キャリーオーバーと成育医療 小児慢性疾患患者の日常生活向上のために, へるす出版, 2008.

上別府圭子: 心理検査, p29-30 / 社団法人 日本精神神経学会 児童精神科医養成に関する委員会編, 一般精神科医のための子どもの心の診療テキスト (精神神経学雑誌 110(2)付録), 厚生労働省雇用均等・児童家庭局, 2008.

鈴宮寛子, 山下洋, 上別府圭子, 吉田敬子: 事例とミニレクチャーで学ぶ産後の母親のメンタルヘルス支援活動 企画・立ち上げから実践まで, (財)母子衛生研究会編, 母子保健事業団, 2008.

上別府圭子: 心理検査, p29-30 / 社団法人 日本精神神経学会 児童精神科医養成に関する委員会編, 一般精神科医のためのこどもの心の診療テキスト (精神神経学雑誌 110(2)付録), 厚生労働省雇用均等・児童家庭局, 2008. (査読無)

上別府圭子: 3. 乳幼児期・児童期の心の健康と病理, p41-54 / 新訂 心の健康と病理, 放送大学教育振興会, 2008.

上別府圭子: 6. 女性の心の健康と病理, p83-96 / 新訂 心の健康と病理, 放送大学教育振興

会, 2008.

上別府圭子 : 7. 家族の心の健康と病理, p97-114 / 新訂 心の健康と病理, 放送大学教育振興会, 2008.

山崎あけみ, 原礼子編集 : 家族看護学-19 の臨床場面と 8 つの実践例から学ぶ, 南江堂, 2008.

山崎あけみ : 第 3 章 女性を取り巻く社会的・文化的文脈-第 1, 2, 4 節, p.81-94, 121-126 / 吉沢豊予子・鈴木幸子編 : 女性看護学, メジカルフレンド社, 2008.

池田真理 : 看護コミュニケーション 基礎知識と実際, p120-123 / 福沢周亮, 桜井敏子編 : 初版第 2 刷, 教育出版, 2008.

藤岡寛, 上別府圭子 : 5-5 死にゆく子どもの心理と社会関係 (1) 死の概念, p124-125 / 医療保育テキスト, 3. 子ども・家族の理解と支援, 日本医療保育学会認定医療保育専門士研修用テキスト 2008 年版, 日本医療保育学会 (編), 2008.

藤岡寛, 上別府圭子 : 5-5 死にゆく子どもの心理と社会関係 (2) 死の気づきと受容, p126-129 / 医療保育テキスト, 3. 子ども・家族の理解と支援, 日本医療保育学会認定医療保育専門士研修用テキスト 2008 年版, 日本医療保育学会 (編), 2008.

#### 研究班会議・報告書など

上別府圭子 : 平成 19 年度 第 1 回厚生労働省がん研究助成金 石田班会議, 2007 年 6 月 15 日, 愛知県名古屋市.

上別府圭子, 佐藤伊織 : PedsQL Brain Tumor Module 日本語版開発計画, 平成 20 年度 第 1 回厚生労働省がん研究助成金 石田班会議, 2008 年 6 月 14 日, 愛知県.

上別府圭子 : 小児がん経験者の心理社会的な実態とその関連要因の把握, 平成 20 年度 厚生労働省がん研究助成金 第 2 回石田班分担班会議, 2008 年 8 月 1 日, 東京都.

上別府圭子，石田也寸志，本田美里，岩井艶子，大園秀一，坂本なほ子，掛江直子，堀部敬三，浅見恵子，前田尚子，稲田浩子，岡村純：小児がん経験者の晩期合併症および QOL の実態に関する横断的調査研究(Part 2) QOL および心理社会的健康について，平成 20 年度 第 3 回厚生労働省がん研究助成金 石田班会議，2009 年 2 月 13 日，東京都。

上別府圭子，井田孔明，滝田順子，星順隆，尾関志保，小林京子，近藤博子，樋口明子，松下竹次，前田美穂，西垣佳織，池田真理，藤岡寛，小西美樹，佐藤伊織：小児がんサバイバーと家族における晩期障害の実態と学際的介入プログラムの開発，平成 16 年度～18 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)研究成果報告書）（主任研究者：上別府圭子），2007。

上別府圭子，上野里絵，牛島定信：次世代育成に関わる者のメンタルヘルス(その 2)精神疾患を有する女性が「親になること」に関する質的研究，メンタルヘルス岡本記念財団 2006 年度 研究助成報告集，18：29-36，2006。

吉田敬子，山下洋，鈴宮寛子，上別府圭子，江井俊秀：育児機能低下と乳児虐待の評価パッケージの作成と，それを利用した助産師と保健師による母親への介入のための教育と普及，厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業 平成 18 年度 総括・分担研究報告書（主任研究者：吉田敬子），2007。

吉田敬子，山下洋，鈴宮寛子，上別府圭子，江井俊秀：育児機能低下と乳児虐待の評価パッケージの作成と，それを利用した助産師と保健師による母親への介入のための教育と普及，厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業 平成 16～18 年度 総合研究報告書（主任研究者：吉田敬子），2007。

上別府圭子，古田正代，西垣佳織，栗原佳代子：地域保健活動における出産後の母子援助方法の普及・啓発セミナーに関する評価研究（主任研究者：吉田敬子），35-48，2007。

上別府圭子，山崎あけみ，杉下佳文，村山志保，吉田敬子，山下洋，鈴宮寛子，村中峯子，栗原佳代子，櫻井美里：周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究，平成 19 年度 (財)こども未来財団 児童関連サービス調査研究等事業報告書，（主任研究者：上別府圭子），2008。

上別府圭子，山崎あけみ，杉下佳文，村山志保，吉田敬子，山下洋，鈴宮寛子，村中峯子，

栗原佳代子, 櫻井美里: 周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究 [報告書概要], 平成 19 年度児童関連サービス調査研究等事業報告書, (財)こども未来財団, (主任研究者: 上別府圭子), 2008.

上別府圭子, 山崎あけみ, 杉下佳文, 村山志保, 吉田敬子, 山下洋, 鈴宮寛子, 村中峯子, 栗原佳代子: 周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究, 平成 19 年度児童関連サービス調査研究等事業報告書, (財) こども未来財団, 2008 年 2 月.

上別府圭子, 山崎あけみ, 杉下佳文, 村山志保, 吉田敬子, 山下洋, 鈴宮寛子, 村中峯子, 栗原佳代子: 周産期のメンタルヘルスと育児支援のシステム構築に関する研究[報告書概要], 平成 19 年度児童関連サービス調査研究等事業報告書, (財) こども未来財団, 2008 年 2 月.

上別府圭子, 小町美由紀, 松岡豊: 次世代育成に関わる者のメンタルヘルス (その 3) 看護師の二次的外傷性ストレスに関する研究, 2007 年度 研究助成報告集, 19: 57-63, (財)メンタルヘルス岡本記念財団, 2008 年 12 月.

通水理恵, 黒木春郎, 五十嵐正紘, 財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 2006 年度研究助成完了報告書「小児プライマリ・ケアにおける医師-患者間の検討 ~医療的ケアが必要な子どもを抱える家族へのケアシステム構築のためのニーズ調査~, <http://www.zaitakuiryo-yuumizaidan.com/main/result.php?year=2006#2111> (2008.05)

#### 学会・研究発表

Kamibeppu, K., Ozeki, S., Ikeda, M., Nishigaki, K., Fujioka, H., Konishi, M., Higuchi, A., Ida, K., Matsushita, T., Hoshi, T.: Posttraumatic stress in adolescent and young adult survivors of childhood cancer and their siblings, The 8th International Family Nursing Conference, June 4-7, 2007, Bangkok, Thailand.

Nonaka, J., Kamibeppu, K.: Grieving process in siblings of children who died of cancer, 39<sup>th</sup> Annual Congress of the International Society of Paediatric Oncology, Nov. 1-3, 2007, Mumbai, India.

Yamazaki, A.: End-of-life care: That promotes growth for parents and their infants with Trisomy 18 Syndrome, FAOPS (Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies) 15<sup>th</sup> Conference, May 20-24,

2008, Nagoya, Japan.

Ueno, R., Kamibeppu, K.: Mother-child dynamism: A qualitative study of parenting of mothers with mental illnesses, The 8th International Family Nursing Conference, June 4-7, 2007, Bangkok, Thailand.

Omine, F., Tamashiro, Y., Nakamura, M., Kojya, Y., Gima, T., Maeshiro, C., Kuniyoshi, M., Kamibeppu, K.: Study on the different effect by different health education systems to high school students, 40<sup>th</sup> APACPH: Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health, November, 2008, Kuala Lumpur, Malaysia.

Wakimizu, R., Kamibeppu, K.: The effects on adjustment and anxiety of Japanese preschool children and caregivers of at-home preparation program for surgical hospitalization using video and booklet: A randomized controlled trial, The 8th International Family Nursing Conference, June 4-7, 2007, Bangkok, Thailand

村上慶子, 西垣佳織, 上別府圭子: 東京都 23 区の保育園における保健活動と看護職の役割, 第 54 回日本小児保健学会, 2007 年 9 月 20-22 日, 群馬県前橋市.

涌水理恵, 上別府圭子: 鼠径ヘルニア根治術を受ける就学前の子どもと親を対象とした家庭での psychological preparation の実践—介入状況と介入効果に着目して—, 第 54 回日本小児保健学会, 2007 年 9 月 20-22 日, 群馬県前橋市.

西垣佳織, 上別府圭子: 医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の子どもに対する精神的余裕の変化に関する質的研究, 第 54 回日本小児保健学会, 2007 年 9 月 20-22 日, 群馬県前橋市.

小林京子, 上別府圭子: PedsQL-J を用いた小児 QOL 評価: 親・子の心理状態と評価者間差との関連, 第 27 回日本看護科学学会学術集会, 2007 年 12 月 7-8 日, 東京都千代田区.

平島奈津子, 上別府圭子, 奥寺崇, 牛島定信, 中久喜雅文, 上島国利: 力動精神医学の教授法の開発に関する予備的研究, 第 104 回日本精神神経学会総会, 2008 年 5 月 29 日-31 日, 東京都港区.

小西美樹, 山崎あけみ, 上別府圭子: NICU 入院早期の授乳(経管栄養)場面における看護支援の開発, 第 15 回日本家族看護学会学術集会, 2008 年 9 月 13-14 日, 神奈川県藤沢市.

上別府圭子, 山崎あけみ, 水主いずみ, 松村ちづか, 古池きよみ: 現任教育において実践者と教育者をつなぐ, 第 15 回日本家族看護学会 交流セッション 1, 2008 年 9 月 14 日, 神奈川県藤沢市.

杉下佳文, 栗原佳代子, 村山志保, 上別府圭子: 周産期メンタルヘルスと虐待防止に関する育児支援システムの実態-全国県型保健所による取り組み-, 第 55 回日本小児保健学会, 2008 年 9 月 25-27 日, 北海道札幌市.

涌水理恵, 西垣佳織, 黒木春郎, 五十嵐正紘: 小児プライマリ・ケアにおける保護者の医療機関の選択プロセス, 第 55 回日本小児保健学会学術集会, 2008 年 9 月 25-27 日, 北海道札幌市.

陳俊霞, 村山志保, 上別府圭子: 中国都市部の定年退職者の主観的幸福感の関連要因 - 役割を焦点に当てて -, 第 73 回日本民族衛生学会総会, 2008 年 10 月 26-27 日, 神奈川県横浜市.

上別府圭子, 佐藤伊織, 本田美里, 大園秀一, 岩井艶子, 坂本なほ子, 掛江直子, 岡村純, 浅見恵子, 前田尚子, 稲田浩子, 堀部敬三, 石田也寸志: 小児がん経験者の心理社会的な実態と関連要因<厚労省研究班からの報告>, 第 24 回日本小児がん学会, 2008 年 11 月 14-16 日, 千葉県.

上別府圭子, 尾関志保, 本田美里, 大園秀一, 岩井艶子, 坂本なほ子, 掛江直子, 岡村純, 浅見恵子, 前田尚子, 稲田浩子, 堀部敬三, 石田也寸志: 小児がん経験者における Posttraumatic Growth の実態と関連要因<厚労省研究班からの報告>, 第 24 回日本小児がん学会, 2008 年 11 月 14-16 日, 千葉県千葉市.

石田也寸志, 本田美里, 上別府圭子, 大園秀一, 岩井艶子, 坂本なほ子, 掛江直子, 岡村純, 浅見恵子, 前田尚子, 稲田浩子, 堀部敬三: 小児がん経験者の晩期合併症および QOL の実態調査 - 厚労省研究班からの報告 -, 第 24 回日本小児がん学会, 2008 年 11 月 14-16

日, 千葉県千葉市.

陳俊霞, 村山志保, 上別府圭子: 中国都市部の大学からの定年退職者の主観的幸福感の関連要因---役割を焦点に当てて, 日本民族衛生学会, 2008年11月26-27日, 神奈川県横浜市.

杉下佳文, 栗原佳代子, 上別府圭子: 周産期のメンタルヘルスと子ども虐待予防に関する育児支援システムの実態調査, 第5回周産期のメンタルヘルス研究会, 2008年11月29日, 東京都港区.

樋口明子, 佐藤伊織, 柳澤隆昭, 西川亮, 石田也寸志, 上別府圭子: PedsQL Brain Tumor Module 日本語版 開発計画 Development of a Japanese version of the Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) Brain Tumor Module, 第26回日本脳腫瘍学会, 2008年11月30日-12月2日, 愛媛県松山市.

藤岡寛: 小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究, 平成20年度東京都看護協会看護研究学会, 2008年12月5日, 東京都千代田区.

小西美樹: 「NICU 入院早期の授乳(経管栄養)場面における看護支援」の開発過程, 平成20年度東京都看護協会看護研究学会, 2008年12月5日, 東京都千代田区.

#### 講演・シンポジウムなど

Kamibeppu, K.: JSPOG Seminar 2 - Cognitive Therapy and Psychoanalytic Psychotherapy, The XV International Congress of the International Society of Psychosomatic Obstetrics and Gynecology, May 13-16, 2007, Kyoto.

Yamazaki, A. (Moderator): The 12<sup>th</sup> EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) Conference, “Maternity health nursing and nursing graduate education (Oral session 8)”, March 13-14, 2009, Tokyo, Japan.

山崎あけみ: 看護研究, 平成19年度看護部院内研修, 都立大塚病院, 2007年5月24日, 東京都.

山崎あけみ：周産期における家族看護学 ①家族看護における対象理解，平成 20 年度財団法人田附興風会医学研究所 北野病院研修会，2008 年 7 月 2 日，大阪府大阪市。

上別府圭子：チーム医療における力動，臨床医のための力動精神医学セミナー，2007 年 7 月 21 日，東京都。

山崎あけみ：家族の意思決定プロセスを支援する看護，平成 19 年 第 87 回母子保健セミナー「周産期における倫理を考える」，母子愛育会研修部，2007 年 7 月 27 日，東京都。

上別府圭子：(座長) 特別講演「医療コミュニケーションの概論」，医療安全教育セミナー2007 夏季(日本語社会人教育プログラム)-病院システムの安全向上-，2007 年 8 月 8 日，東京都。

上別府圭子：(座長) 特別講演「がん診療における患者参加」，医療安全教育セミナー2007 夏季(日本語社会人教育プログラム)-病院システムの安全向上-，2007 年 8 月 8 日，東京都。

山崎あけみ：周産期医療における家族看護，平成 19 年度 小児看護「新生児集中ケアと家族支援」，日本看護協会 神戸研修センター教育研修部，2007 年 8 月 8 日，兵庫県神戸市。

上別府圭子：女性のための健康相談・カウンセリング的演習，健やか親子 21 平成 19 年度「女性の健康エクササイズセミナー」，2007 年 8 月 21 日，東京都。

上別府圭子：(座長) 一般示説「家族への援助・介入」，日本家族看護学会第 14 回学術集会，2007 年 9 月 1-2 日，青森県。

上別府圭子：2007 年度日本精神衛生学会 第 4 回月例事例検討会，2007 年 10 月 15 日，東京都。

上別府圭子：心身の病気を抱える親との関わり・疑いも含めて，(財) 児童育成協会 こどもの城保育研究開発部 平成 19 年度第 2 回家庭支援の理論と実践，2007 年 10 月 27 日，東京都。

上別府圭子：(座長) ポスターセッション「摂食障害」，第 48 回日本児童青年精神医学会，2007 年 10 月 30 日-11 月 1 日，岩手県。

上別府圭子：(座長) 一般演題「分科会Ⅰ 不登校・ひきこもり」，日本精神衛生学会第23回大会，2007年11月10-11日，東京都。

上別府圭子：2007年度日本精神衛生学会 第5回月例事例検討会，2007年11月19日，東京都。

上別府圭子：(座長) 家族看護，第27回日本看護科学学会学術集会，2007年12月7-8日，東京都。

上別府圭子：2007年度日本精神衛生学会 第6回月例事例検討会，2007年12月10日，東京都。

上別府圭子：(シンポジスト) 小児がんサバイバーと家族の課題と支援，第5回日本小児がん看護研究会 シンポジウム「子どもと家族の継続的支援」，2007年12月15日，宮城県。

上別府圭子：(コメンテーター) 第17回看護研究・実践報告会，東京都看護協会東部地区支部看護研究委員会，2008年2月2日，東京都。

山崎あけみ：家族看護過程:理論編，平成19年度 院内教育研修，静岡県立静岡がんセンター，2008年2月6日，静岡県駿東郡。

上別府圭子：東京都立大塚病院 平成19年度 看護部病院研修 専門コース「看護研究」，2008年2月18日，東京都。

上別府圭子：(総合司会) メンタルヘルスの集い「精神科病院のこれからを考える」(第22回日本精神保健会議)，2008年3月1日，東京都。

上別府圭子：(座長) シンポジウム「成人期のサイコセラピー—成人期の発達障害とどうかかわるか—」，第9回日本サイコセラピー学会，2008年3月8-9日，大阪府。

山崎あけみ：家族看護過程:実践編，平成19年度 院内教育研修，静岡県立静岡がんセンター，2008年3月12日，静岡県駿東郡。

上別府圭子：(シンポジスト) 家族に対する支援，第111回日本小児科学会学術集会 分野別

シンポジウム 4「小児がん経験者をめぐる問題と長期フォローアップシステムの整備」, 2008年4月25-27日, 東京都千代田区.

上別府圭子: (シンポジスト) 病院内で行なう心のケアという仕事, 第49回日本心身医学会学術講演会 シンポジウムVIII「心身医療における医師と心理士の連携」, 2008年6月12-13日, 北海道札幌市.

上別府圭子: (講義) 産後のメンタルヘルスの基礎知識と(演習) ケースへの関わり方の実際, 産後の母親のメンタルヘルス支援研修, 2008年7月12日, 茨城県笠間市.

上別府圭子: 治療後に起こる治療の影響と支援の必要性, 日本小児がん看護研究会主催 第5回小児看護研修会「長期フォローアップの現状と展望～看護の役割を考える～」, 2008年8月30日, 東京都.

上別府圭子: 病気の子どもの家族支援, 基礎・臨床・社会医学統合講義(東京大学医学部医学科), 2008年9月5日, 東京都.

上別府圭子: (司会) 事例研究 A6「『看護力』をキーワードにした看護局のメンタルヘルス対策」, 日本心理臨床学会第27回大会, 2008年9月6日, 茨城県つくば市.

上別府圭子, 山崎あけみ: (プランナー) 交流セッション1「現任教育において実践者と教育者をつなぐ」, 日本家族看護学会第15回学術集会, 2008年9月13日, 神奈川県藤沢市.

山崎あけみ: 周産期における家族看護学 ②家族看護の目標設定, 平成20年度財団法人田附興風会医学研究所 北野病院研修会, 2008年9月18日, 大阪府大阪市.

山崎あけみ: 家族研究, 平成20年度 看護部院内研修, 都立大塚病院, 2008年10月1日, 東京都.

山崎あけみ: 家族の視点から不妊を考える, 日本不妊カウンセリング学会, 第23回不妊カウンセラー・体外受精コーディネイター養成講座, 2008年10月11日, 東京都.

上別府圭子: (指定講演) 医療的ケアが必要な子どもを抱える家族のQOL, 第19回日本小

児外科 QOL 研究会 シンポジウム 2「在宅患者の QOL」, 2008 年 10 月 18 日, 東京都.

上別府圭子: (座長) セッション 2-1「青少年・発達」, 日本精神衛生学会第 24 回大会, 2008 年 11 月 9 日, 大分県別府市.

上別府圭子: (座長)「がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム」小児がん患児家族の社会的サポート, (財)がんの子供を守る会創立 40 周年記念事業, 2008 年 11 月 15 日, 千葉県千葉市.

上別府圭子: 産後の母親のメンタルヘルス支援について, 平成 20 年度産後の育児不安サポート体制強化事業研修会, 2008 年 11 月 20 日, 青森県五所川原市.

上別府圭子: (座長) ワークショップ 復学への支援, 第 6 回日本小児がん看護研究会, 2008 年 11 月 16 日, 千葉県千葉市.

山崎あけみ: ステップ III がん看護 家族ケア, 平成 20 年度 院内教育研修, 東日本電信電話株式会社 関東病院, 2008 年 12 月 2 日, 東京都.

藤岡寛: 小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究, 平成 20 年度東京都看護協会看護研究学会, 2008 年 12 月 5 日, 東京都千代田区.

山崎あけみ: 産褥早期の女性の健康と家族機能のアセスメント技法, 平成 20 年度 越谷保健所管内母子保健担当者連携調整会議, 越谷保健所, 2008 年 12 月 8 日, 埼玉県越谷市.

上別府圭子: 産後の母親のメンタルヘルス支援について, 平成 20 年度母子保健福祉研修 (基礎研修Ⅲ), 2009 年 1 月 22 日, 宮城県仙台市.

山崎あけみ: 家族看護過程の展開:理論編, 平成 21 年度 院内教育研修, 静岡県立静岡がんセンター, 2009 年 1 月 26 日, 静岡県駿東郡.

上別府圭子: (コメンテーター) 看護研究・看護報告会, 東京都看護協会東部地区支部「看護研究・看護報告会」, 2009 年 2 月 14 日, 東京都文京区.

山崎あけみ：家族看護過程の展開:実践編，平成 21 年度 院内教育研修，静岡県立静岡がんセンター，2009 年 2 月 23 日，静岡県駿東郡。

上別府圭子：(総合司会) 第 23 回日本精神保健会議「メンタルヘルスの集い」“あなたの中に、そして私の中にも～精神障がい者への差別や偏見を考える～”，2009 年 3 月 7 日，東京都千代田区。

上別府圭子：(スーパーバイザー) 事例報告「EPDS などの質問表を活用した支援活動の実際」，第 2 回「産後の母親のメンタルヘルス支援研究」，2009 年 3 月 14 日，茨城県水戸市。

上別府圭子：(シンポジスト) 小児がん経験者における Posttraumatic Growth，日本トラウマティック・ストレス学会第 8 回大会 シンポジウム C 差異・ジェンダー・その他「PTG～Posttraumatic Growth 研究の臨床的意義と今後の発展に向けて～」，2009 年 3 月 14-15 日，東京都新宿区。

上別府圭子：「精神分析入門－無意識の発見-」，平成 19 年度放送大学第 2 学期 ラジオ放送授業，2007 年 4 月 13 日，10 月 10 日，2008 年 3 月 18 日。

上別府圭子：(座長) シンポジウム サイコセラピーはいかに先端医療に貢献するか，第 10 回日本サイコセラピー学会，2009 年 3 月 29 日，東京都新宿区。

上別府圭子：「精神分析入門－無意識へ至る道-」，平成 19 年度放送大学第 2 学期 ラジオ放送授業，2007 年 4 月 20 日，10 月 17 日，2008 年 3 月 19 日。

上別府圭子：「精神分析入門－精神発達理論-」，平成 19 年度放送大学第 2 学期 ラジオ放送授業，2007 年 6 月 22 日，12 月 12 日，2008 年 3 月 27 日。

上別府圭子：「臨床心理学研究法特論－家族の研究法-」，平成 19 年度放送大学第 2 学期 ラジオ放送授業，2007 年 6 月 18 日，12 月 15 日，2008 年 3 月 27 日。

一般雑誌・新聞その他

上別府圭子：研修会報告「家庭支援の理論と実践」より，子育て支援のニュースレター，(財)

児童育成協会 こどもの城, 29 : 9-10, 2007.

上別府圭子: インタビュー・産後うつ病対策等への支援, 公衆衛生情報, 38(2): 18-20, 2008.

上別府圭子: (放送) 放送大学「精神分析入門」(3コマ), 2008.

上別府圭子: (放送) 放送大学「心の健康と病理」(3コマ), 2008.

上別府圭子: (放送) 放送大学「臨床心理学研究法特論」(1コマ), 2008.

上別府圭子: 看護研究委員会報告, 平成20年度第25回東部地区支部総会プログラム, p11, 東京都看護協会東部地区支部, 2008.

上別府圭子: (書評) 園田雅代・平木典子・下山晴彦編「女性の発達臨床心理学」(金剛出版), 精神療法, 34(3): 346, 2008.

上別府圭子: (書評) I・K・クロンビー著 (津富宏訳)「研究論文の読み方 (医療専門職のための) 批判的吟味がわかるポケットガイド」(金剛出版), 精神療法, 34(4): 479-40, 2008.

上別府圭子: (取材協力) [シリーズ・“産み, 育てる”] 日本初, 産後ケアセンターが担うこと, TOKYO MX NEWS, 2008.7.

上別府圭子: (放映) NHK 総合テレビジョン 首都圏ネットワーク「トラウマを残さない小児ガン治療」, 2008.7.

上別府圭子: (インタビュー) 日本描画テスト・描画療法学会第18回大会 大会長インタビュー, 教育医事新聞7月25日号, 2008.

上別府圭子: (書評) 赤穂理絵・奥村茉莉子編, 井西庸子・太田直子・佐々木常雄著「心により添う緩和ケア 病いと向き合う「いのち」の時間」, 心と社会, 39(4): 94-95, 2008.

内藤直子: 英国ナチュラルバース最前線—第28回 ICM と Oxford Brookes 大学“助産学教育・院内助産院”, New Medical World Weekly 週刊医学界新聞, (5)2806, 2008.11.17.

上別府圭子：編集後記，*心と社会*，40(1): 112，2009.

上別府圭子，杉下佳文：産後うつ病：退院前にできる支援と地域との連携，*妊産婦と赤ちゃんケア*，1(2):17-22，2009.

杉下佳文，山本弘江，上別府圭子：子どもの虐待予防に助産師はどうかかわるか，*助産雑誌*，63(2):129-132，2009.

#### 社会貢献

上別府圭子：(大会長) 日本描画テスト・描画療法学会第18回大会，2008年9月20-21日，東京都.

## 2 - 3. 学内外の公的活動

### 上別府圭子

- 2000年 日本児童青年精神医学会 評議員
- 2003年 日本精神衛生会 「こころと社会」編集委員
- 2004年 日本サイコセラピー学会 常任理事／編集委員長
- 2006年 日本予防医学リスクマネジメント学会 理事
- 2006年 第27回日本看護科学学会学術集会 企画委員(-2007年12月)
- 2006年 日本描画テスト・描画療法学会第18回大会 大会長(-2008年9月)
- 2007年 日本児童青年精神医学会教育に関する委員会委員
- 2007年 日本看護科学学会 評議員
- 2008年 日本精神衛生学会 常任理事

### 山崎あけみ

- 2007年 日本家族看護学会 平成19-21年度 研究・教育促進委員会委員
- 2007年 日本家族看護学会 第15回学術集会 企画委員 (-2008年9月)
- 2006年 日本看護科学学会 第27回学術集会 企画委員 (-2007年12月)
- 2008年 日本看護科学学会 平成20-21年度 英文誌編集委員会委員  
Japan Journal of Nursing Science (Official Journal of the Japan Academy  
of Nursing Science) Managing Editor

### 家族看護学教室

平成19年度 都立大塚病院看護部 専門コース「看護研究」への協力

- 2007年5月24日 「看護研究とは」「文献検索について」(山崎あけみ)
- 2007年6月15日 「研究デザインとは」「統計処理について」(尾関志保)
- 2007年9月10日 「研究計画書のまとめ方について」(尾関志保)
- 2007年11月22日 「看護研究のまとめ方1」(尾関志保)
- 2008年1月25日 「看護研究のまとめ方2」(尾関志保)
- 2008年2月18日 「研究発表会」(上別府圭子)

平成20年度 都立大塚病院看護部 専門コース「看護研究」への協力

- 2008年10月1日 「研究とは」(山崎あけみ)
- 2008年11月13日 「研究デザイン」(松本和史)
- 2009年2月9日 「研究計画書の作成」(松本和史)

日本描画テスト・描画療学会第18回大会—家族と描画—開催

会期：平成20年9月20日 ワークショップ

平成20年9月21日 第18回大会

会場：東京大学本郷キャンパス医学部教育研究棟

プログラム：

【特別講演】

「生きるということと家族イメージ～西欧の人々の内観面接をもとに～」

講演者 村瀬嘉代子（大正大学） 司会 森岡由起子（大正大学）

【シンポジウム】

「家族の研究～ひとまとまりの家族をとらえる工夫～」

シンポジスト 「量的研究の立場から」佐伯俊成（広島大学大学院）

シンポジスト 「描画の研究の立場から」加藤孝正（同朋大学）

シンポジスト 「質的研究の立場から」上別府圭子（東京大学大学院）

指定討論者 下山晴彦（東京大学大学院）

【ワークショップ】

「描画テスト入門<HTPP>」高橋依子（甲子園大学）

「家族イメージ法:FIT」亀口憲治（東京大学）

「非行と家族の描画」藤掛明（聖学院大学）

「クライン派の児童分析」木部則雄（白百合女子大学）

「ファミリーアートセラピー」鈴木恵（埼玉県立精神医療センター）

「描画テスト入門（家族画・動画家族画）」加藤孝正（同朋大学）

「Baumtestの新しい展開」岸本寛史（京都大学）・東京バウム研究会

「粘土造形」倉光修（東京大学）

「小児看護における描画」塩飽仁（東北大学）

「映画の精神分析」平光奈津子（昭和大学）

参加者：【大会】 373名

【ワークショップ】309名

【懇親会】 81名

今大会テーマを「家族と描画」とし、ワークショップや本大会では、看護学のみならず医学・臨床心理学・福祉学など学際的に、家族や家族研究にまつわる様々な課題について、ディスカッションし深める機会となった。

また、大会実行においては、教室員が中心となり実行委員を務め上げ、スムーズに大会を実施することができ、参加者や学会役員の皆様から評価をいただいた。

### 3. 教室カンファレンス

平成 19 年度

4 月 10 日

上野理絵 (論文抄読)

William. R. Beardslee, Tracy R. G. Gladstone, Ellen J. Wright, Andrew B. Cooper. :  
A Family-Based Approach to the Prevention of Depressive Symptoms in Children at  
Risk: Evidence of Parental and Child Change, PEDIATRICS, 112(4): 119-131, 2003

藤岡寛 (研究発表)

思春期の子どもへの服薬に対する思いの変遷についての質的研究

4 月 17 日

西垣佳織 (論文抄読)

G. Damiani, P, Rosenbaum, M, Swinton and D, Russell. : Frequency and Determinants  
of Formal Respite Service Use Among Caregivers of Children with Cerebral Palsy  
in Ontario, Child: Care, Health & Development, 30: 77-86, 2004

小西美樹 (研究発表)

NICU 入院早期に保育器に收容されている早産児の授乳場面へ母親が参加するための  
看護支援の開発

4 月 24 日

古田正代 (論文抄読)

Pat Fobair, Susan L. Stewart, Subo Chang, Carol D' onofrio, Priscilla J. Banks,  
Joan R. Bloom. : Body Image and Sexual Problems in Young Women with Breast Cancer,  
Psycho-Oncology, 15: 579-594, 2006

陳俊霞 (研究発表)

中国の都市部に住む定年退職者の役割遂行と幸福感の関係に関する研究

5 月 8 日

藤岡寛 (論文抄読)

Kyngas H. ; Compliance of Adolescents with Chronic Disease, Journal of Clinical

Nursing, 9: 549-556, 2000

上野理絵（研究発表）

精神疾患を有する親の子どもへの病いの説明およびその関連要因（仮）

5月22日

小西美樹（論文抄読）

Fenwick J Barclay L, Schmied V.; 'Chatting' : an Important Clinical Tool in Facilitating Mothering in Neonatal Nurses, Journal of Advanced Nursing, 33(5): 583-593, 2001

西垣佳織（研究発表）

在宅療養障害児の主介護者のレスパイトケア利用に関する研究

5月29日

小西美樹（研究発表）

NICU 入院早期に保育器に収容されている早産児の授乳場面へ母親が参加するための看護支援の開発

古田正代（研究発表）

乳がん術後女性の性機能について

6月12日

佐藤伊織（論文抄読）

Hopia H, Tomlinson PS, Paavilainen, Astedt-Kurki Paivi.: Child in Hospital: Family Experiences and Expectations of How Nurses Can Promote Family Health, Journal of Advanced Nursing 14: 212-222, 2005

陳俊霞（研究発表）

中国の都市部に住む定年退職者の役割遂行と幸福感の関連に関する研究

6月19日

東樹京子（論文抄読）

Janice May-Ching Yiu and Shelia Twinn.: Determing the Needs of Chinese Parent During the Hospitalization of Their Child Diagnosed With Cancer: An Exploratory

Study, Cancer Nursing, 24(6): 483-489, 2001

藤岡寛 (研究発表)

思春期の慢性疾患患者における、服薬に対する思いの変遷についての質的研究

6月26日

津村明美 (論文抄読)

Agrawal M, Grady C, Diane L, Meropo NJ, Maynard K.: Patients' Decision-Making Process Regarding Participation in Phase I Oncology Research, Journal of Clinical Oncology, 24(27): 4479-4484, 2006

栗原佳代子 (論文抄読)

Winnicott, D.W. Therapeutic Consultation in Child Psychiatry, A Division of Harper Collins Publisher, New York: 220-238, 1971

7月3日

藤岡寛 (論文抄読)

Malbasa T, Kodish E, Santacroce SJ.: Adolescent Adherence to Oral Therapy for Leukemia: A Focus Group Study, Journal of Pediatric Oncology Nursing, 24(3): 139-151, 2007

陳俊霞 (論文抄読)

Adlmann P.K.: Multiple Roles and Psychological Well-being in a National Sample of Older Adults, Journal of Gerontology, 49(6): 277-285, 1994

7月10日

小西美樹 (論文抄読)

Davis L, Mohay H, Edwards H.: Mothers' involvement in caring for their premature infants: an historical overview, Journal of Advanced Nursing, 7(3): 172-181, 2003

佐藤伊織 (研究発表)

小児がんの子どものきょうだいへの影響要因

7月17日

陳俊霞 (論文抄読)

Saeko Kikuzawa. : Multiple Roles and Mental Health in Cross-Cultural Perspective: The Elderly in the United States and Japan, Journal of Health and Social Behavior, 47: 62-76, 2006

東樹京子 (研究発表)

初発の小児がんの子どもに対する母親のレジリエンスに影響するもの

津村明美 (研究発表)

終末期がん患者・家族の意思決定について

9月4日

上野理絵 (論文抄読)

Corona R, Beckett MK, Cowgill BO, Elliott MN, Murphy DA, Zhou AJ, Schuster MA. : Do Children Know Their Parent's HIV Status? Parental Reports of Child Awareness in a nationally Representative Sample, Ambulatory Pediatrics, 6(3): 138-144, 2006

村上慶子 (研究発表)

東京都23区の保育園における保健活動と看護職の役割

西垣佳織 (研究発表)

医療的ケアが必要な在宅療養児の母親の子どもに対する精神的余裕の変化に関する質的研究

9月11日

西垣佳織 (論文抄読)

Zarit SH, Stephens MA, Townsend A, Greene R. : Stress Reduction for Family Caregivers: Effects of Adult Day Care Use, Journal of Gerontology, 53(5): 267-277, 1998

上野理絵 (研究発表)

精神疾患を有する母親の報告による母親の病いに関する子どもとの対話及びその関連要因

9月18日

西垣佳織 (研究発表)

在宅療養障害児の主介護者のレスパイトケア利用に関する研究

9月25日

佐藤伊織（論文抄読）

Lobato DJ, Kao BT.: Family-Based Group Intervention for Young Siblings of Children with Chronic Illness and Developmental Disability, *Journal of Pediatric Psychology*, 30(8): 678-682, 2005.

藤岡寛（研究発表）

思春期の慢性疾患患者における、服薬に対する思いの変遷についての質的研究

10月2日

東樹京子（論文抄読）

Earle EA, Clarke SA, Eiser C, Sheppard L.: 'Building a new word normality': mothers' experiences of caring for a child with acute lymphoblastic leukaemia, *Child: care, health and development*, 33(2): 155-160, 2006

小西美樹（研究発表）

NICU 入院早期に保育器に收容されている早産児の授乳場面へ母親が参加するための看護支援の開発

10月9日

津村明美（論文抄読）

Tang ST.: When Death is imminent: Where terminally ill patients with cancer prefer to die and why, *Cancer Nursing*, 26(3), 245-251, 2003.

佐藤伊織（研究発表）

小児がんの子どもが説明を受けることの意味

10月16日

藤岡寛（論文抄読）

Smith BA, Shuchman M.: Problem of nonadherence in chronically ill adolescents: strategies for assessment and intervention, *Psychiatry*, 17, 613-618, 2005.

東樹京子（研究発表）

闘病中の小児がんの親の支援について（仮）

10月23日

小西美樹（論文抄読）

Stevens B, Lee SK, Law MP, Yamada J, Canadian Neonatal Network EPIC Study Group:  
A qualitative examination of changing practice in Canadian neonatal intensive  
care units, Journal of Evaluation in Clinical Practice, 13,287-294, 2007.

陳俊霞（研究発表）

中国の都市部に住む定年退職者の役割遂行と幸福感(Well-being) の関係に関する研究

11月13日

M2 修論進捗状況

藤岡寛

小児慢性疾患患者における服薬の思いに関する質的研究（服薬意志形成プロセスに焦点をあてて）

小西美樹

NICU に保育器に収容されている早産児の授乳場面へ母親が参加するための看護支援の開発

陳俊霞

国の都市部に住む定年退職者の役割遂行と幸福感(Well-being) の関係に関する研究

11月20日

陳俊霞（論文抄読）

Reid J, Hardy M. : Multiple roles and well-being among midlife women: Testing role strain and role enhancement theories, Journal of Geontology, 54, 329-338, 1999.

津村明美（研究発表）

終末期悪性グリオーマ患者・家族の療養場所の選択に関する意思決定の支援

11月27日

上野理絵（論文抄読）

Bachmann S, Botttmer C, Jacob S, Schroder J.: Perceived criticism in schizophrenia: A comparison of instruments for the assessment of the patient's perspective and its relation to relatives' expressed emotion, *Psychiatry Research*, 142,167-175, 2006.

藤岡寛 (研究発表)

小児慢性疾患患者における服薬の思いに関する質的研究 (服薬の意志形成プロセスに焦点をあてて)

12月4日

西垣佳織 (論文抄読)

Yun-Hee Jeon, Brodaty H, O' Neill C, Chesterson J.: 'Give me a break - respite care for older carers of mentally ill persons, *Scandinavian Journal of Caring Sciences*, 20,417-426, 2006.

小西美樹 (研究発表)

NICU入院早期の早産児の授乳場面における看護支援の開発

12月11日

佐藤伊織 (論文抄読)

Palmer SN, Messke KA, KatzER, Burwinkle TM, Varni JW.: The PedsQL™ Brain Tumor Module: Initial Reliability and Validity, *Pediatrics Blood Cancer*, 49, 287-293, 2007.

陳俊霞 (研究発表)

中国都市部の大学からの定年退職者の幸福感および関連要因

12月18日

M2 進捗報告会

藤岡寛

小児慢性疾患患者における服薬の服薬意志形成プロセスに関する質的研究

小西美樹

NICU入院早期の早産児の授乳場面における看護支援の開発

陳俊霞

中国都市部の大学からの定年退職者の幸福感および関連要因

1月8日

M2 修論進捗発表

藤岡寛

小児慢性疾患患者（思春期）における服薬の服薬意志形成プロセスに関する質的研究

小西美樹

NICU入院早期の早産児の授乳場面における看護支援の開発

陳俊霞

中国都市部の大学からの定年退職者の幸福感および関連要因

1月22日

M2 修論発表会準備

藤岡寛

小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究

小西美樹

NICU入院早期の早産児の授乳場面（経管栄養）における看護支援の開発

陳俊霞

中国都市部の大学からの定年退職者の幸福感および関連要因

1月29日

M2 修論発表会準備

藤岡寛

小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究

小西美樹

NICU入院早期の早産児の授乳場面（経管栄養）における看護支援の開発

陳俊霞

中国都市部の大学からの定年退職者の幸福感および関連要因

2月5日

東樹京子（論文抄読）

Pyke-Grimm KA, Degner L, Small A, Mueller B.: Preferences for participation in treatment decision making and information needs of parents of children with cancer: A pilot study, *Journal of Pediatric Oncology Nursing*, 16(1), 13-24, 1999

津村明美 (論文抄読)

Murray MA, O' Connor AM, Fiset V, Viora R.: Women's decision-making needs regarding place of care at end of life, *Journal of Palliative Care*, 19(3), 176-184, 2003

2月19日

上野理絵 (論文抄読)

Cutting LP, Aakre JM, Docherty NM.: Schizophrenic patients' perceptions of stress, expressed emotion, and sensitivity to criticism, *Schizophrenia Bulletin*, 32(4), 743-750, 2006

西垣佳織 (研究発表)

在宅療養障害児主介護者のレスパイトケアに関する研究

2月26日

佐藤伊織 (論文抄読)

Lai J-S, Cella D, Tomita T, Bode RK, Newmark M, Goldman S.: Developing a health-related quality of life instrument for childhood brain tumor survivors, *Child's Nervous System*, 23, 47-57, 2007

栗原佳代子 (話題提供)

ドメスティック・バイオレンス

3月4日

津村明美 (論文抄読)

O' Connor AM, Tugwell P, Wells GA, Elmslie T, Jolly E, Hollingworth G, McPherson R, Bunn H, Graham I, Drake E.: A decision aid for women considering hormone therapy after menopause: decision support framework and evaluation, *Patient Education and Counseling*, 33, 267-279, 1998

東樹京子 (論文抄読)

Coggin C, Shaw-Perry M.: Breast cancer survivorship: Expressed needs of black women, *Journal of Psychosocial Oncology*, 24(4), 107-122, 2006

3月11日

M1 研究発表

津村明美

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

佐藤伊織

PedsQL (Pediatric Quality of Life Inventory 4.0) Brain Tumor Module 日本語版の開発

東樹京子

造血幹細胞移植後のがんの子どもへの第二種学校伝染病に関する看護師から保護者への情報支援に関する研究

平成 20 年度

4月15日

上野里絵 (研究進捗報告)

精神疾患を有する母親の子育ておよびセルフケアに影響を与える心理社会的環境に関する研究

佐藤伊織 (論文抄読)

G Rebok, A. Riley, C. Forrest, B. Starfield, B. Green, J. Robertson & E. Tambor: Elementary school-aged children's reports of their health: A cognitive interviewing study, *Quality of Life Research* 10:59-70, 2001

4月22日

東樹京子 (論文抄読)

K. Patterson, D. Porock.: A Survey of Pediatric Oncology Nurses' Perceptions of Parent Educational Needs. *Journal of Pediatric Oncology Nursing*, 22(1): 58-66, 2005.

佐藤伊織 (研究進捗報告)

PedsQL (Pediatric Quality of Life Inventory 4.0) Brain Tumor Module 日本語版の  
開発

進捗報告倫理審査申請書類を用いて

5月13日

津村明美 (論文抄読)

The SUPPORT Principal Investigators.: A Controlled Trial to Improve Care for  
Seriously Ill Hospitalized Patients, JAMA, 274(20):1591-1598, 1995.

東樹京子 (研究進捗報告)

造血肝細胞移植後のがんの子ども第二種学校伝染病に関する看護師から保護者へ  
の復学前における情報支援についての研究

5月20日

池田真理 (論文抄読)

June C. Carroll et al; Effectiveness of the Antenatal Psychosocial Health  
Assessment (ALPHA) form in detecting psychosocial concerns: a randomized  
controlled trial. CMAJ, 173(3): 253-257, 2005.

津村明美 (研究進捗報告)

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質  
的研究

5月27日

上野里絵 (論文抄読)

Kathleen Biebel et al; A National survey of State Mental Health Authority  
Programs and Policies For Clients Who Are Parents: A Decade Later. Psychiatric  
Quarterly, 77 (2),119-128 2006.

古田正代 (研究進捗報告)

乳児の泣きに関する研究(仮題)

6月3日

古田正代 (論文抄読)

Ian St James-Roberts et al.; Infant Crying and Sleeping in London, Copenhagen and When Parents Adopt a “Proximal” Form) of Care. Pediatrics 117(6), 1146-1155, 2006

池田真理 (研究進捗報告)

周産期のメンタルヘルスの研究

6月10日

大塚寛子 (論文抄読)

Donahue R. et al: Nurse practitioner-client interaction as resource exchange in a women's health clinic: an exploratory study. Journal of Clinical Nursing 12: 717-725, 2003.

上野里絵 (研究進捗報告)

精神疾患を有する母親の子育ておよびセルフケアに影響を与える心理社会的環境に関する研究

6月17日 研究発表

佐々木綾子 (研究発表)

男性保健師が性別と関係付けて認識している職業上の経験に関する研究

佐藤伊織 (研究進捗報告)

PedsQL (Pediatric Quality of Life Inventory 4.0) Brain Tumor Module 日本語版の開発 (パイロットテスト)

6月24日

佐藤伊織 (論文抄読)

Taphoorn MJ, et al: Health-related quality of life in patients with glioblastoma: a randomised controlled trial. Lancet Oncology. 6:937-944, 2005

東樹京子 (研究進捗報告)

造血肝細胞移植後のがんの子どもへの第二種学校伝染病に関する看護師からの保護者への復学前における情報支援についての研究

7月1日

東樹京子（論文抄読）

McCarthy AM, et al: Evaluation of a School Re-entry Nursing Intervention for Children With Cancer, *Journal of Pediatric Oncology Nursing*, 15 (3): 143-152, 1998

津村明美（研究進捗報告）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

7月8日

津村明美（論文抄読）

Teno JM, et al: Patient-Focused, Family -Centered End-of-Life Medical Care: Views of the Guidelines and Bereaved Family Members. *Journal of Pain and Symptom Management*, 22(3): 738-751, 2001

大塚寛子（研究進捗報告）

女性外来における看護職の役割と他職種・他機関との連携について～これまでの研究課題を振り返り、修士論文のテーマを考える～

9月2日

古田正代（論文抄読）

Noel - Weiss J, et al: Randomized controlled Trial to Determine Effects of Prenatal Breastfeeding Workshop on Maternal Breastfeeding Self-Efficacy and Breastfeeding Duration. *JOGNN*, 35(5): 616-624, 2006

上野里絵（研究進捗報告）

精神疾患を有する母親の子育てに影響を与える心理社会的環境に関する研究

9月9日

池田真理（論文抄読）

Beardslee W, et al: Development of a Family-based Program to Reduce Risk and Promote Resilience Among Families Affected by Maternal Depression: Theoretical Basis and Program Description, *Clin. Child Family Psychology Rev*, 11: 12-29, 2008

津村明美（研究進捗報告）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質

的研究

9月16日

東樹京子 (論文抄読)

Upton P and Eiser C: School experiences after treatment for a brain tumour. *Child: Care, Health & Development*, 32(1): 9-17, 2006

佐藤伊織 (研究進捗報告)

PedsQL BTM の開発

9月30日

津村明美 (論文抄読)

Jacob D, et al: Family Members' Experiences with Decision Making For Incompetent Patients in the ICU: A Qualitative Study. *American Journal of Critical Care*, 7(1): 30-36, 1998

東樹京子 (研究進捗報告)

造血肝細胞移植後の小児がん患児の復学における第二種の学校伝染病に関する支援

10月7日

大塚寛子 (論文抄読)

Schuster M, et al: Evaluation of Talking Parents, Healthy teens, a new worksite based parenting programme to promote parent-adolescent communication about sexual health: randomized controlled trial. *BMJ Online First*, October 2, 2008

古田正代 (研究進捗報告)

母乳育児支援に関する研究

11月11日

津村明美 (論文抄読)

Tilden VP, et al: Decisions About Life-Sustaining Treatment. *Archives of International Medicine*, 155, 633-638, 1995

大塚寛子 (研究進捗報告)

思春期の娘をもつ母親の家庭での月経教育に関連する要因

11月18日

佐藤伊織 (論文抄読)

Theunissen NC, et al: The proxy problem: child report versus parent report in health-related quality of life research. *Quality of Life Research*, 7, 387-397, 1998

池田真理 (研究進捗報告)

妊娠期における妊婦への心理社会的支援について、および産後うつ病クリーニング尺度の開発(仮)

11月25日

山本弘江 (論文抄読)

Sepa A, et al: Psychosocial correlates of parenting stress, lack of support and lack of confidence/security. *Scandinavian Journal of Psychology*, 45,169-179, 2004

津村明美 (研究進捗報告)

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

12月2日

副島堯史 (論文抄読)

Treiber FA, et al: Children's Knowledge and Concerns Towards a Peer with Cancer: A Workshop Intervention Approach. *Child Psychiatry and Human Development*, 16(4), 249-260, 1986

佐藤伊織 (研究進捗報告)

PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版の開発

12月9日

上野里絵 (博士研究・予演)

精神疾患を有する母親の母親役割の認識に影響を与える心理社会的要因に関する研究

12月16日

佐藤伊織（研究進捗報告）

PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美（研究進捗報告）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

1月6日

佐藤伊織（研究進捗報告）

PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美（研究進捗報告）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

副島堯史(卒業研究進捗報告)

児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

1月20日

佐藤伊織（修士論文発表準備）

PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美（修士論文発表準備）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

1月27日

佐藤伊織（修士論文発表準備）

PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美（修士論文発表準備）

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究

2月3日

大塚寛子（論文抄読）

Houston AM, et al: Knowledge, attitudes, and consequences of Menstrual Health in Urban Adolescent Females. *Journal of Pediatric Adolescence Gynecology* 19: 271-275, 2006

副島堯史 (研究経過報告)

児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

2月10日

古田正代 (論文抄読)

Roberts ISJ, et al: Individual differences in responsivity to a neurobehavioral examination predict crying patterns of 1-week-old infants at home. *Developmental Medicine & Child Neurology* 45:400-407, 2003

副島堯史 (研究発表)

児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

3月3日

池田真理 (研究経過報告)

産後うつ予防のための妊娠期からの介入プログラムに関する研究(仮)

大塚寛子 (研究経過報告)

高校生の月経前症候群 (PMS) の認識と性周期に伴う愁訴について

3月10日

佐々木綾子 (研究発表)

システムとしての家族への看護を行った症例報告から読む臨床での家族看護

古田正代 (研究経過報告)

生後間もない乳児の泣きに関する研究

3月17日

栗原佳代子 (話題提供)

育児相談

東樹京子 (研究経過報告)

小児がんの子どもの復学支援 看護師のアセスメント項目の明確化(仮)

#### 4. 家族看護学教室研究会

##### 4-1. 家族看護学研究会（講師敬称略）

第35回 2006年4月27日

岩本佳文（当教室助教）

「臨床助産の経験と『消化器症状と分娩経過の関連』の研究」

第36回 2006年6月29日

内藤直子（香川大学医学部看護学科教授/当教室客員研究員）

「Knafl の Family Management Style Framework と Narrati veanalysis の実際」

第37回 2006年9月28日

池田智子（茨城県立医療大学保健医療学部看護学科准教授/当教室客員研究員）

「産業保健分野の研究の動向と今後の課題 —中小規模事業場におけるメンタルヘルスの推進—」

第38回 2007年2月22日

野中淳子（神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科教授）

「子どもの入院環境とプレパレーション —A県におけるアンケート調査から—」

第39回 2008年4月18日

河田みどり（三重県立看護大学看護学部看護学科准教授/当教室客員研究員）

「大学付属の地域交流研究センターでの活動報告(仮)」

第40回 2008年6月20日

渡辺久美（岡山大学大学院保健学研究科看護学分野精神看護学助教/当教室客員研究員）

「小児期および思春期発症摂食障害の家族支援のあり方に関する着基礎的研究」

第41回 2008年10月24日

小西美樹（聖母大学看護学部小児看護学教室助教/当教室客員研究員）

「NICU入院早期の授乳(経管栄養)場面における看護支援」の開発過程

藤岡 寛（心身障害児総合医療療育センター看護師/当教室客員研究員）

「小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究」

第42回 2009年2月27日

能智正博（東京大学教育学研究科准教授）

「質的データ 分析の実際」

第43回 2009年3月13日

上野理絵（当教室大学院博士課程/当教室客員研究員）

「精神疾患を有する母親の母親役割の認識に影響を与える心理社会的要因に関する研究」

#### 4-2. 家族ケア症例研究会

第16回 2007年5月18日

津村明美 (家族看護学分野修士課程1年)

患者・家族の意思決定への支援

～ターミナル期の青年の看護をめぐる～

第17回 2007年10月26日

杉下陽堂 (医師)

産婦人科領域における治療の可能性とその予後

第18回 2007年11月21日

増井起代子 (東京逋信病院精神科)

慢性疾患の母親を介護するうつ病男性への地域支援

～家族への危機介入の一事例～

第19回 2008年3月14日

相原舞子 藤原 香 (済生会横浜市東部病院 小児病棟看護師)

神経性疾患の子どもの在宅自己導尿へ向けての家族へのアプローチ

第20回 2008年7月18日

藤野智子 (聖マリアンナ医科大学病院 救命救急センター師長)

急性・重症患者看護専門看護師 集中ケア認定看護師)

脳死状態となった女性をとりまく家族への看護

第21回 2008年11月28日

加賀爪かおり (聖路加国際病院)

NICUにおいて予後不良児の家族に治療の選択を求められたとき

第22回 2008年12月19日

角能正浩 (心身障害児総合医療療育センター看護主任)

脳死判定を受けた子どもと家族への関わり ～治療やケアをめぐるスタッフの思い～

## 5. 「家族看護学」勉強会（院生自主勉強会）

### 【目的】

- (1) 家族看護学を系統的に学び、実践・臨床体験から考える。
- (2) 家族看護学を学部学生や臨床ナースに対し、教授できる力を養う。

### 【主なテキスト】

- (1) 山崎あけみ，原礼子編集：家族看護学 19 の臨床場面と 8 つの実践例から考える，南江堂，2008

### 【サブテキスト】

- (2) 鈴木和子，渡辺裕子：家族看護学—理論と実践，第 3 版，日本看護協会出版会，2006
- (3) 野嶋佐由美：家族エンパワーメントをもたらす看護実践，ヘルス出版，2005
- (4) 小林奈美：グループワークで学ぶ家族看護論—カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ，医歯薬出版，2006

### 【日程】

第 1 回：2008 年 9 月 1 日 大塚 寛子

テキスト (1) 序章「家族看護学を初めて学ぶ」

第 2 回：2008 年 9 月 1 日 佐藤 伊織

テキスト (1) I 章「家族看護学における対象理解」

1. 発達する家族

第 3 回：2008 年 9 月 30 日 津村 明美

テキスト (1) I 章「家族看護学における対象理解」

2. システムとしての家族

第 4 回：2008 年 9 月 30 日 東樹 京子

テキスト (1) I 章「家族看護学における対象理解」

3. 家族を理解するポイント

第5回：2008年10月7日 東樹 京子

テキスト(1) I章「家族看護学における対象理解」

4. 家族像の形成

第6回：2008年10月14日 佐藤 伊織

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

1. 健康な家族についての考え方

A. ストレスに対処している家族

1 二重ABC-Xモデル

第7回：2008年10月14日 大塚 寛子

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

1. 健康な家族についての考え方

A. ストレスに対処している家族

2 夫婦・家族システムの円環モデル

第8回：2008年10月14日 津村 明美

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

1. 健康な家族についての考え方

B. 機能している家族の構造

第9回：2008年10月14日・24日 津村 明美

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

1. 健康な家族についての考え方

B. 機能している家族の構造

第10回：2008年11月4日 東樹 京子

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

2. 家族とのパートナーシップ

第11回：2008年11月4日 津村 明美

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

3. 代表的な家族アセスメントモデル

A. 家族アセスメント

第12回：2008年11月11日 陳 俊霞

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

3. 代表的な家族アセスメントモデル

B. カルガリー家族アセスメント・介入モデル

第13回：2008年11月18日 ビデオ学習・ディスカッション

Drs. Lorraine M. Wright and Maureen Leahey 著, 小林奈美監修：ファミリー・ナーシング The “How to” Family Nursing Series ファミリー・ナーシング Vol.5 家族面接の効果的な質問, eFamily Nursing.com1, 2006

第14回：2008年11月25日 ビデオ学習・ディスカッション

Drs. Lorraine M. Wright and Maureen Leahey 著, 小林奈美監修：ファミリー・ナーシング The “How to” Family Nursing Series ファミリー・ナーシング Vol.2 カルガリー式家族アセスメントモデル：臨床場面への応用, eFamily Nursing.com1, 2006

第15回：2008年12月2日 佐藤 伊織

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

3. 代表的な家族アセスメントモデル

C. 家族生活力量モデル

第16回：2008年12月12日 大塚 寛子

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

3. 代表的な家族アセスメントモデル

D. 家族エンパワメントモデル

第17回：2008年12月24日 東樹 京子

テキスト(1) II章「家族看護学における目標・看護過程・評価」

4. 家族の健康を引き出す看護過程

## 6. 教室の沿革

- 2007.4.1 常勤スタッフは、准教授 1 (上別府圭子), 講師 1 (山崎あけみ), 助教 2 (村山志保, 杉下佳文), 技術官 1 (秋山照男) の計 5 名. 非常勤講師 5 (鳥居央子先生, 法橋尚宏先生, 清水敬生先生, 星順隆先生, 岩田力先生), 大学院博士課程 6 (古田正代, 上野里絵, 西垣佳織, 小林京子(休学), 池田真理(休学), 長谷川美由紀(休学)), 修士課程 6 (佐藤伊織, 陳俊霞, 藤岡寛, 小西美樹, 津村明美, 東樹京子), 客員研究員 9 (大谷尚子, 内藤直子, 大嶺ふじ子, 下平和代, 渡邊久美, 池田智子, 松本和史, 河田みどり, 涌水理恵), 研究生 3 (野中淳子, 栗原佳代子, 佐々木彩子).
- 2007.5.19 平成 19 年度家族看護学分野スタッフ会議を開催.
- 2008.4.1 常勤スタッフは、准教授 1 (上別府圭子), 講師 1 (山崎あけみ), 助教 2 (村山志保, 杉下佳文), 技術官 1 (秋山照男) の計 5 名. 非常勤講師 5 (鳥居央子先生, 法橋尚宏先生, 清水敬生先生, 星順隆先生, 岩田力先生), 大学院博士課程 7 (上野里絵, 西垣佳織, 古田正代, 池田真理, 小林京子(休学), 小町美由紀(休学), 陳俊霞(休学)), 修士課程 4 (佐藤伊織, 津村明美, 東樹京子, 大塚寛子), 客員研究員 12 (大谷尚子, 内藤直子, 大嶺ふじ子, 渡邊久美, 池田智子, 松本和史, 河田みどり, 涌水理恵, 藤岡寛, 小西美樹, 栗原佳代子, 山本弘江), 研究生 1 (佐々木彩子), 卒論生 1 (副島堯史).
- 2008.6.6 平成 20 年度家族看護学分野スタッフ会議を開催.
- 2008.8.29 村山志保助教が休職.
- 2008.9.20~21 日本描画テスト・描画療法学会第 18 回大会 (大会長 上別府圭子准教授) を開催.
- 2008.10.1 吉田亜希子 (研究生), 樋口明子 (客員研究員).
- 2009.3.1 山本弘江助教が就任.
- 2009.3.31 秋山照男技官が定年.

## 7. 資料（卒論・修論・博論要旨）

### 平成 19 年度

#### 修士論文

陳 俊霞：

中国都市部の大学からの定年退職者の主観的幸福感および関連要因

小西美樹：

N I C U入院早期の早産時の授乳（経管栄養）場面における看護支援の開発

藤岡 寛：

小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究

### 平成 20 年度

#### 卒業論文

副島堯史：

児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

#### 修士論文

佐藤伊織：

PedsQL(Pediatric Quality of Life Inventory)脳腫瘍モジュール日本語版の開発

津村明美：

終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する  
質的研究

#### 博士論文

上野里絵：

精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える心理社会的  
要因に関する研究

## 中国都市部の大学からの定年退職者の主観的幸福感および関連要因

Related Factors on Subjective Well-being for Staffs Retired from a University in urban China

66018 陳 俊 霞

Chen Junxia

指導教員： 上別府 圭子 准教授

Tutor: A. Prof. K. Kamibeppu

健康科学・看護学専攻平成18年4月入学

Admission to Division of Health Sciences

and Nursing in April, 2004

中国都市部の大学からの定年退職者の日常役割・活動の実態と主観的幸福感(SWLS)の実態を把握することおよび主観的幸福感の関連要因を探索することを目的とした。2007年9月に、中国都市部のA省B市にあるC大学の定年退職者を対象に、配付留置法及び郵送法にて無記名自記式質問紙調査を実施した。回収率は75%であり、そのうち60歳以上で、地域で生活している356名を分析対象とした。全対象者の平均年齢は $68.4 \pm 5.8$ 歳で、男性は220名で、女性は136名であった。役割の遂行実態は、男女ともに、遂行頻度が高い順に、配偶者、子供、孫、隣人との関り、集団的な活動であった。役割の総数の平均値は $7.7 \pm 1.8$ 種であった。SWLS得点は全対象者の平均が $24.2 \pm 5.2$ 点、男性で $24.6 \pm 5.0$ 点、女性で $23.5 \pm 5.4$ 点であり、男性の方が有意に高かった。SWLSの関連要因を検討した結果は、男性において、年齢が高く、慢性疾患がなく、経済状況にゆとりがあり、自己効力感が高く、離婚・別居、家族・親友とのトラブルがなく、孫との関りが多いほど、SWLS得点が高かった。女性において離婚・別居、家族・親友とのトラブルがなく、家族・親友の重い病気・けががなく、隣人との関りが多く、集団的な活動に多く参加し、個人の娯楽活動を実施し、持つ役割の総数が多いほど、SWLS得点が高かった。

本研究から、中国都市部の大学からの定年退職者の日常役割・活動の実態が明らかになった。定年退職者への生活支援において、性別への配慮の必要性があると示唆された。男性において、慢性疾患の予防、孫との関りの支援の必要性が示された。女性においては、趣味や学習などを行える機会を提供していくことが重要であろう。

Key words: elderly, retired, role, subjective well-being, urban China

NICU入院早期の早産児の授乳（経管栄養）場面における看護支援の開発

Development the guideline for NICU nursing: tube feeding of preterm infants during an early stage

66063 小西 美樹

Miki Konishi

指導教員：上別府 圭子 准教授

Tutor: A. Prof. K. Kamibeppu

健康科学・看護学専攻 平成18年4月入学

Admission to School of Health Sciences

and Nursing in April, 2006

NICU入院早期の早産児の授乳場面における看護支援を開発することを目的に、地域周産期母子医療センター2施設の新生児集中治療室（以下、NICU）入院児と母親11組、看護師12名に対して、観察法と面接法による調査を行い、質的に分析した。看護師は【児への直接的ケア】や【母親を観察】することによって得た情報を【授乳場面での看護の意味づけ】と組み合わせ、【母児への看護に苦慮する要因】がありながらも、【授乳場面での母児への看護】を行っていた。母親にとって、新生児集中治療の現場であるNICUで育児に参加できることは思いもよらないことであったが、看護実践を提供されることで、＜面会に行く＞＜児の反応に気がつく＞＜できる範囲で育児参加する＞と段階的に《授乳場面での体験》をしていた。母親が退院を迎える頃には、児の体調回復と成長を願い、前向きに《NICUの医療者に児を任せよう》と思うと同時に、自分にもできることをして《自分も成長を見守りたい》と思うようになっていた。このような母親の体験・思いが生じるには、《児の命が助かったと感じる》《母親の身体が回復する》《看護師の支えがある》という条件が整う必要があった。以上を踏まえて、1.母親の授乳場面への参加の促進 2.児のcueに基づく母児の相互作用の促進 3.育児参加による母親との協働を推奨する「NICU入院早期の早産児の授乳場面における看護支援」を開発した。看護支援が推奨される条件は、児の生命が危機的状態ではなく、刺激への反応が過敏ではないこと、児の病状を母親が理解し、安心していること、母親の身体的回復が順調で、母乳分泌が開始されていること、母乳栄養が医学的に禁忌ではないこと、NICUや看護師の業務量が通常の範囲だということであった。NICUでは、入院から一貫して母親の役割を支えることが重要である。授乳場面は入院早期の育児場面として適切で、活用できる。

Key words: mothers, neonatal intensive care nursing, practice guidelines, premature infants, qualitative research

小児慢性疾患患者における服薬の意志形成プロセスに関する質的研究

The forming process of the will to take medicine

in adolescents with chronic disease: A qualitative research

66069 藤岡 寛

Hiroshi Fujioka

指導教員：上別府 圭子 准教授

Tutor: A. Prof. K. Kamibeppu

健康科学・看護学専攻 平成 18 年 4 月入学

Admission to School of Health Sciences

and Nursing in April, 2006

小児慢性疾患患者における、服薬アドヒアランスに関する行動の前提として考えられる、服薬の意志形成プロセスを明らかにすることを目的として、服薬を継続している小児慢性疾患患者 16 名に半構造化面接を行い、修正版グラウンデッドセオリーアプローチを用いて質的分析を行った。その結果、5 つの概念が抽出された。対象者は、薬の副作用や服用の困難さ・煩わしさに対して[服薬の不安・不満]を抱いており、[飲みたくない]が生じていた。それに対して、完治が難しく長期治療を必要とする自分の病気について再発・重症化するかもしれないと不安を抱き、完治・寛解維持を願う[慢性疾患に対する思い]と、体感や実感など感覚的に得られる[薬の効用の理解]が結びつくことで、薬を飲まないで再発・重症化するかもしれないと不安を抱き、薬を飲んで完治・寛解維持したいという[薬を飲もう]が生じていた。対象者は、[飲みたくない]と[薬を飲もう]の相反する思いにおける葛藤を経て、やがて[飲みたくない]から[薬を飲もう]へ転じていた。すなわち<服薬意志の転換>というプロセスが明らかになった。このプロセスに関連して、自分の病気が継続して治療を必要としていることを意識づけたり、薬の効用について感覚に訴える説明を行ったりするなど、服薬の意志形成に向けて、医療者や親による継続支援の必要性が示唆された。このプロセスに関して今後更なる臨床場面での応用すなわち検証が期待される。

Key words: adherence, adolescent, chronic disease, oral medication, qualitative research

## 卒業論文内容要旨

論文題目： 児童生徒の小児がんの認識および小児がん経験者に対する態度調査

指導教員： 上別府圭子 准教授

東京大学医学部健康科学・看護学科

平成 19 年度進学

氏名 副島堯史

### 【緒言】

近年、小児がんに対する治療方法の進歩・普及により、小児がん患児の約 7 割が長期寛解状態となり、地域の学校に復学している。しかし復学した患児は学校生活上の問題に直面することが多い傾向にあり、そのような問題の 1 つとして友人関係の構築やクラスへの適応が挙げられる。患児の友人関係やクラスへの適応にとって、クラスメイトの好意的な態度や学校生活内での協力が重要であると考えられる。

小児がん患児と同様に疾患や治療によって学校生活上の困難に直面し、友人関係やクラスへの適応が課題となる児童生徒として、小児慢性疾患患者と障害児が挙げられる。小児慢性疾患患者や障害児に関する先行研究では、一般児童生徒の受容的な態度に関連する要因が明らかになっている。しかし、小児がん患児に関しては、一般児童生徒の小児がんや患児に対する認識の実態が明らかになっておらず、一般児童生徒の受容的な態度に関連する要因を明らかにした先行研究も筆者の知る限り見当たらない。

本研究は、一般の児童生徒の小児がんに関する知識やイメージおよび小児がん患児への態度の実態を記述し、小児がん患児への受容的な態度に関連する要因を検討することを目的とする。

### 【方法】

2008 年 12 月に、近畿地方の県庁所在地にある小学校 2 校、中学校 1 校に在籍している小学 3 年生から中学 3 年生までの児童生徒計 1232 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を行った。各小中学校の学校長からの承諾を得た後、担任教諭を通じて、児童生徒に研究説明を行ない、質問紙および保護者向け・本人向け説明書を配布した。保護者と本人が同意した児童生徒に自宅にて回答するよう依頼し、担任教諭を通じて回収した。回収後、小児がんに関する正しい知識を普及するために作成したリーフレットを配布した。なお、本研究は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した(承認番号 2285)。

質問紙内容は、「性別・入院経験等の基本属性」「健康状態」「がん・小児がんの認識」「患児との接触経験」「小児がんへの関心度」「小児がんの知識」「患児へのイメージ」「患児に対する態度」である。また「小児がんの知識」は各項目の合計得点を“知識得点”、「患児

へのイメージ」「患児に対する態度」は各項目の平均得点をそれぞれ“イメージ得点”“態度得点”とした。解析は、それぞれの記述統計量を算出し、また“態度得点”との関連が見られた要因を説明変数、“態度得点”を従属変数とした重回帰分析を行った。

### 【結果】

880名より有効回答を得た(有効回答率71.4%)。小児がん患児と同様に1ヶ月以上の入院経験があった児童は14名(1.6%)であった。小児がんの認識を持つ児童生徒は510名(58.0%)であった。患児との接触経験のある児童生徒は678名(77%)であり、テレビを通じての接触経験が639名(72.6%)と最も多く、患児と直接接触経験のある児童生徒は14名(1.6%)であった。小児がんに関心があると回答した児童生徒は552名(62.8%)であった。小児がんの知識について児童生徒はよく理解していたが、「小児がんの予後」が正しく認識されていない現状が明らかになった。また児童生徒は小児がん患児に対して好意的・受容的なイメージや態度を持っている傾向を示した。

態度に影響を与える要因として、特に「小児がん患児への好意的なイメージ」と「小児がんへの高い関心」が示された(表1)。

### 【考察】

小児がんの知識について「小児がんの予後」が正しく認識されていない実態が明らかになった。一方、児童生徒は小児がん患児に対して好意的・受容的なイメージや態度を示す傾向にあることも明らかになり、これは小児がん患児の境遇に対する共感的な感情が関連していると考えられた。

受容的な態度に対して「小児がん患児への好意的なイメージ」と「小児がんへの高い関心」が特に大きく影響していたことから、小児がん患児が地域の学校に復学する際には、小児がんや患児に対する好意的なイメージや高い関心に結び付くような児童生徒への働きかけを、教員や医療者が行うことが重要であると示唆された。

表1 態度得点を従属変数とした重回帰分析 (n=664)

	$\beta$	t		VIF
イメージ得点	0.351	10.222	**	1.238
小児がんへの関心	0.308	9.201	**	1.176
PedsQL_社会的機能	0.082	2.627	**	1.302
学年	0.065	1.98	*	1.127
小児がんの認識	0.066	1.843	†	1.357
知識得点	0.065	1.887	†	1.225
性別	0.045	1.427		1.033
接触経験	-0.014	-0.4		1.245

AdjustedR<sup>2</sup>=0.368, F=49.15\*\*, df=8

\*\* : p<.01, \* : p<.05, † : p<.10

強制投入法による重回帰分析を行った

PedsQL (Pediatric Quality of Life Inventory) 脳腫瘍モジュール日本語版の開発  
Development of the Japanese Version of Pediatric Quality of Life Inventory Brain Tumor Module

46019 佐藤 伊織

Iori Sato

指導教員： 上別府 圭子 准教授

Tutor: A. Prof. Kiyoko Kamibeppu

健康科学・看護学専攻 平成 16 年 4 月入学

Admission to School of Health Sciences

and Nursing in April, 2004

【目的】自己評価と保護者評価を備えた 2-18 歳用の健康関連 Quality of Life 尺度である Pediatric Quality of Life Inventory (PedsQL) 脳腫瘍モジュールの日本語版を作成し、実施可能性・信頼性・妥当性を検討する。【方法】定められた順翻訳・逆翻訳の手順とパイロットテストを経て日本語版を作成し、脳腫瘍を持つ 2-18 歳の子どもとその保護者 166 組を対象に質問紙調査を行った。【結果】治療中の者が 65 人 (39%) であり、病名は胎児性腫瘍 47 人 (29%)、胚細胞腫瘍 36 人 (22%)、高悪性度神経膠腫 25 人 (15%)、低悪性度神経膠腫 39 人 (24%) であった。種々の障害を持つ 19 人 (17%) の子どもには回答補助を行った。下位尺度「考えること」「動きとバランス」「処置に対する不安」「吐気」「心配」と保護者評価の「痛み」において、十分な内的一貫性 (Cronbach's  $\alpha$  : 自己評価 0.75-0.84 保護者評価 0.80-0.96) と再検査信頼性 (級内相関係数 : 自己評価 0.67-0.77 保護者評価 0.74-0.95) が見られた。自己評価の「痛み」は、 $\alpha$  が 0.50、再検査との級内相関係数が 0.45 であった。6 因子構造が探索的因子分析により確認された (因子負荷量 : 自己評価 0.33-0.96 保護者評価 0.55-1.00)。既知集団妥当性として、発達障害を持つ群で「考えること」が、手足の麻痺を持つ群で「動きとバランス」が、化学療法中の群で「吐気」が、それぞれそうでない群に比べ低得点であることを示した。PedsQL コアスケール日本語版、児童用状態特性不安尺度との相関行列にて収束弁別妥当性が認められた。【結論】看護介入や治療開発、長期フォローアップにおける評価指標として、PedsQL 脳腫瘍モジュール日本語版が十分な実施可能性・信頼性・妥当性を持つことを明らかにした。

Key words: brain neoplasms, child, family, Japan, quality of life

終末期の過ごし方の意思決定における  
悪性グリオーマ患者・家族への看護に関する質的研究  
A qualitative study on nursing malignant-glioma patients and their family  
about the decision making at the end-of-life

76062 津村 明美

Akemi Tsumura

指導教官: 上別府 圭子 准教授

Tutor: A. Prof. K. Kamibeppu

健康科学・看護学専攻平成 19 年 4 月入学

Admission to School of Health Sciences

and Nursing in April, 2007

本研究は、悪性グリオーマ患者・家族が終末期の過ごし方を意思決定するための看護を明らかにすることを目的とした。悪性グリオーマ患者に関わる医療者 30 名（看護師 27 名・医師 3 名）を対象に半構造化面接を実施し、Grounded Theory Approach における継続比較分析法を用いて分析した。その結果、再発後から昏睡状態に陥るまでの「治療方針の立て直しにおける看護」の時期に、患者・家族が終末期の過ごし方を意思決定するために看護師が用いている〈医療者間で統一した意見を提示する〉〈情緒的なつながりを支持する〉〈療養場所移行後の生活のイメージ化を促進する〉〈療養場所移行後の生活の難しさを軽減する〉〈決定を後押しする〉の 5 つの看護方略が抽出された。また、看護師は 5 つの看護方略を効果的に用いるために、《患者・家族の現状認識の査定》に基づいて、重点を置く看護方略やその順序を変化させていることが明らかとなった。看護師は、意思決定の主体は患者・家族であるということを常に尊重し、5 つの看護方略を用いて支援していくことが重要である。

Key words: decision making, end-of-life, family, malignant-glioma, qualitative study

論文題目 精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える心理社会的要因に関する研究

指導教員 上別府圭子准教授  
東京大学大学院医学系研究科  
平成 18 年 4 月進学  
博士後期課程  
健康科学・看護学専攻  
氏名 上野 里絵

### 背景

精神疾患を有する人の結婚や子育ての機会の増大に伴い、重症の精神疾患を有する人が親になる割合も増大している。中でも、実際に子育てをしている人は、男性より女性の方が多くことから、精神疾患を有する母親(女性)への関心が高まりつつある。今後、精神疾患を有する母親への支援は、研究や臨床においてますます重要な課題になるとと思われる。

近年、精神疾患を有する母親に関する研究は、母親の観点が重視されるようになり、このような研究に共通する知見として、精神疾患を有する母親は、母親役割や子育てを肯定的に認識していることが報告されていることより、母親の母親役割への肯定的な認識に働きかける支援は有用と考えられる。一方、精神疾患を有する母親の心理社会的問題として、経済的困窮、ソーシャルサポートの不足、精神疾患に起因する社会的スティグマや差別、子育てのストレスなどが報告されていることから、母親の子育ては、心理社会的な問題と併せて検討される必要性が指摘されている。加えて、精神疾患は慢性疾患である為、母親にとってセルフケアは子育てと同様に重要な課題であるが、精神疾患を有し、子育てをしている母親のセルフケアは、特有の困難があることが報告されている。また、精神疾患を有する人において家族関係は、重要な心理社会的要因であることは、EE(Expressed Emotion)研究で実証されていること、加えて、精神疾患を有する母親にとって、子どもとの関係は重要とする知見があることより、セルフケア及び子どもとの関係は心理社会的要因として検討される必要がある。

以上より、本研究では、精神疾患を有する母親の心理社会的要因を、経済状態、スティグマ、ソーシャルサポート、セルフケア、子どもとの関係、及び子育てのストレスとし、母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える心理社会的要因を探索することで、多様な支援についての示唆を得ると考えられる。さらに、精神疾患を有する母親への支援はハイリスク児と呼ばれている子どもの予防的観点からも意義があると思われる。

### 目的

1. 精神疾患を有する母親の人口統計学的、精神医学的、及び心理社会的実態を明らかにする。
2. 精神疾患を有する母親の母親役割の認識の特徴を明らかにする。
3. 精神疾患を有する母親の母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える要因を明らかにする。

## 方法

参加者は、東京都内 6 ヶ所の精神科医療施設の外来に通院中の女性(母親)で、統合失調症又は気分障害を有し、18 歳以下の子どもと同居する 74 名であった。人口統計学的情報、精神医学的情報、配偶者の病気の理解、日常生活における相談者に関する情報、及び既存の尺度を含めた無記名自記式質問紙を用いた横断研究を行った。用いた尺度は、Link スティグマ尺度日本語版、The Social Support Questionnaire (SSQ)、地域生活に対する自己効力感尺度(SECL)、Family Emotional Involvement and Criticism Scale (FEICS)、育児ストレスショートフォーム (PS-SF)、及び母親役割受容尺度であった。

### 統計的分析

(1) 人口統計学的、精神医学的、及び心理社会的変数をもとに記述統計を行った。(2) 母親役割の積極的・肯定的認識の指標である MP 及び母親役割の消極的・否定的認識の指標である MN の平均値を算出し、*t* 検定と相関分析を行った。次に、MP と MN における各項目の平均値を算出し、本研究と母親役割受容尺度を開発した大日向(1988)の研究との比較を効果量(effect size)を算出して検討した。(3) MP に影響する要因の検討には、各変数間の相関分析を行った。さらに、MP を目的変数、相関分析にて MP と有意な関連が認められた変数を説明変数とした、階層的重回帰分析を行った。各ブロックへの投入変数は、Liberman (1986)のモデルを参考に構築した本研究の概念モデルに従った。

本研究は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会(受付番号 1977-(2))、及び倫理委員会を存置している各施設にて承認を得た。

## 結果

### 人口統計学的、精神医学的、及び心理社会的実態

参加者の平均年齢は 42.6 歳、子どもの数は 1 人又は 2 人がそれぞれ約 40%、子どもの平均年齢は 12.4 歳であった。71.6%が結婚をし、93.2%が高等学校を卒業していた。生活意識は「苦しい」(大変苦しいとやや苦しい)が 51.4%、「普通」が 32%、「ゆとりがある」(大変ゆとりがあるとややゆとりがある)が 16.7%であった。診断名は統合失調症 44.6%、気分障害 55.4%、罹病期間は平均 9.5 年、入院回数は平均 1.9 回であった。Link スティグマ尺度日本語版総点の平均は  $33.9 \pm 5.8$ 、SSQ 満足度総点の平均は  $27.3 \pm 6.7$ 、SECL 総点の平均は  $67.2 \pm 16.2$ 、FEICS-CC(批判)総点の平均は  $10.7 \pm 3.9$ 、FEICS-EOI(情緒的巻き込まれ過ぎ)総点の平均は  $14.0 \pm 4.3$ 、PS-SF 総点の平均は  $47.3 \pm 11.7$  であった。

### 母親役割の認識の特徴

MP の平均値は、 $2.9 \pm 0.7$  点、MN は、 $2.1 \pm 0.7$  点であり、MP 得点は MN 得点に比べて、統計的に有意に高かった( $p < 0.001$ )。さらに、MP と MN の平均値における本研究と一般の母親を対象とした大日向(1988)の研究と比較した結果、MP での効果量は、 $-0.16$  と 2 群間に差異がないことが示された一方、MN での効果量は  $0.33$  と小さいながらも効果があり、2 群間に差異があることが示唆された。

各項目間の検討では、MP では、「母親であることが好きである」の  $3.3 \pm 0.8$ 、「母親になったことで人間的に成長できた」の  $3.3 \pm 0.8$  が共に他の 4 項目より得点が高く、大日向の研究との比較では差異はなかった。一方、MN では「自分は母親として不適格なのではないだろうか」の  $2.6 \pm 1.1$  が他の 5 項目より得点が高く、大日向の研究との比較では、効果量は  $0.55$  と中等度の効果があった。

### 母親役割の積極的・肯定的認識に影響を与える要因

MP と有意に関連があった変数は、生活意識、スティグマ、ソーシャルサポートの満足度、セルフケア、子どもの EE(批判と情緒的巻き込まれ過ぎ)、及び子育てのストレスであった。階層的重回帰分析の結果、

家族看護学教室 教室員（平成 19 年度～平成 20 年度）

准教授 上別府圭子

講師 山崎あけみ

非常勤講師 鳥居央子

法橋尚宏

清水敬生

星順隆

岩田力

助教 村山志保

杉下佳文

山本弘江（平成 21 年 3 月～）

学術支援職員 秋山照男

教室事務 浅野万里子

教育でお世話になった先生方（五十音順，敬称略）

五十嵐隆

斉藤延人

塚野和代

井田孔明

下左近寿美

堀 成美

岩崎美和

杉山正彦

松本和史

岩中 督

関根孝司

水口 雅

榮木実枝

武笠晃丈

箕輪秀子

岡 明

竹永和子

山下直秀

金森 豊

武村雪絵

大学院生 博士

上野里絵

西垣佳織（平成 20 年 4 月～同 21 年 3 月休学）

古田正代（平成 19 年 10 月～平成 20 年 3 月休学）

池田真理（平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月休学）

小林京子（休学）

小町(長谷川)美由紀（休学）

陳 俊霞（平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月休学）

修士

佐藤伊織（～平成 19 年 3 月）

陳 俊霞（～平成 20 年 3 月）

藤岡 寛（～平成 20 年 3 月）

小西美樹（～平成 20 年 3 月）

津村明美

東樹京子

大塚寛子

卒論生

副島堯史（平成 20 年度）

客員研究員

大谷尚子

内藤直子

大嶺ふじ子

下平(北野)和代（～平成 20 年 3 月）

渡邊久美

池田智子

松本和史

河田みどり

涌水理恵

藤岡 寛（平成 20 年 4 月～）

小西美樹（平成 20 年 4 月～）

栗原佳代子（平成 20 年 4 月～）

山本弘江（～平成 21 年 2 月）

研究生

栗原佳代子（平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月）

佐々木彩子

家族看護学教室年報 第8号

発行年月 平成21年3月31日

発行責任者 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻家族看護学分野  
東京大学医学部家族看護学教室

Tel : 03 - 5841 - 3556 / Fax : 03 - 3818 - 2950